



諸國道中旅鏡

西垣文庫  
文庫10  
6607



弘化五戊申春新刻

文庫10  
6607

旅鏡



西垣文庫

林圭文房潤暉誌版

諸國通中た鏡序



四島の海嶺あふ治まゝ馬代を  
舟の端きて縁のあま白波の  
たもせいの影いあゝ一七このら  
きいもある角世に道中死と  
よもの教くおれこの世はあ  
くにあゝあゝ人乃好ある  
のこ強やううてあも旅人の使  
免あまの神し牛のい書と健  
奎之房あ海乃中仙道と河也  
諸國の海道越海の王撰む  
さくら木よとさまゝのあ

十二歳より公私の務り二十  
七歳に及んで予性靡倫之  
くまは流弊を巡視せしめ  
ついで山川の峻美を遊程の疎密  
にのびとちを尋ねしむるに  
庭のひろくをたふすに  
接するはくく鳥草とわくく  
るの

弘化四年丁未秋

兼右紫山加治禎胤



まのり

道中荷物掛目所定

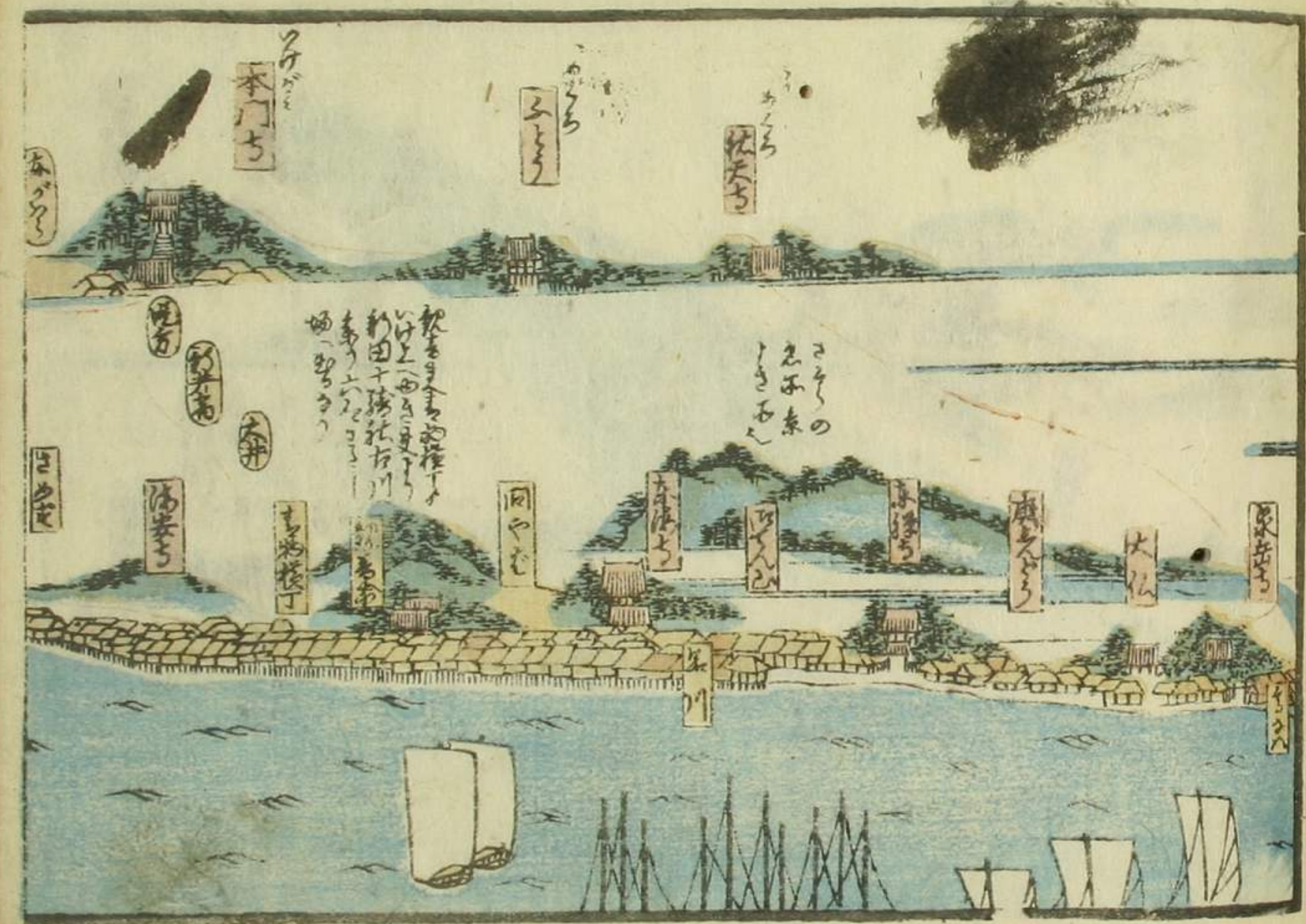
- 一 巻 括 三 括六貫目
- 一 糸掛下 括 括八貫目
- 一 控 扇 三 括六貫目
- 一 人足荷 五 括六貫目
- 一 所本陳 一 括六貫目
- 一 向座 一 括六貫目
- ↑ 玉 括 一 括六貫目
- 一 平紙 一 括六貫目
- 一 渡場 括 括六貫目

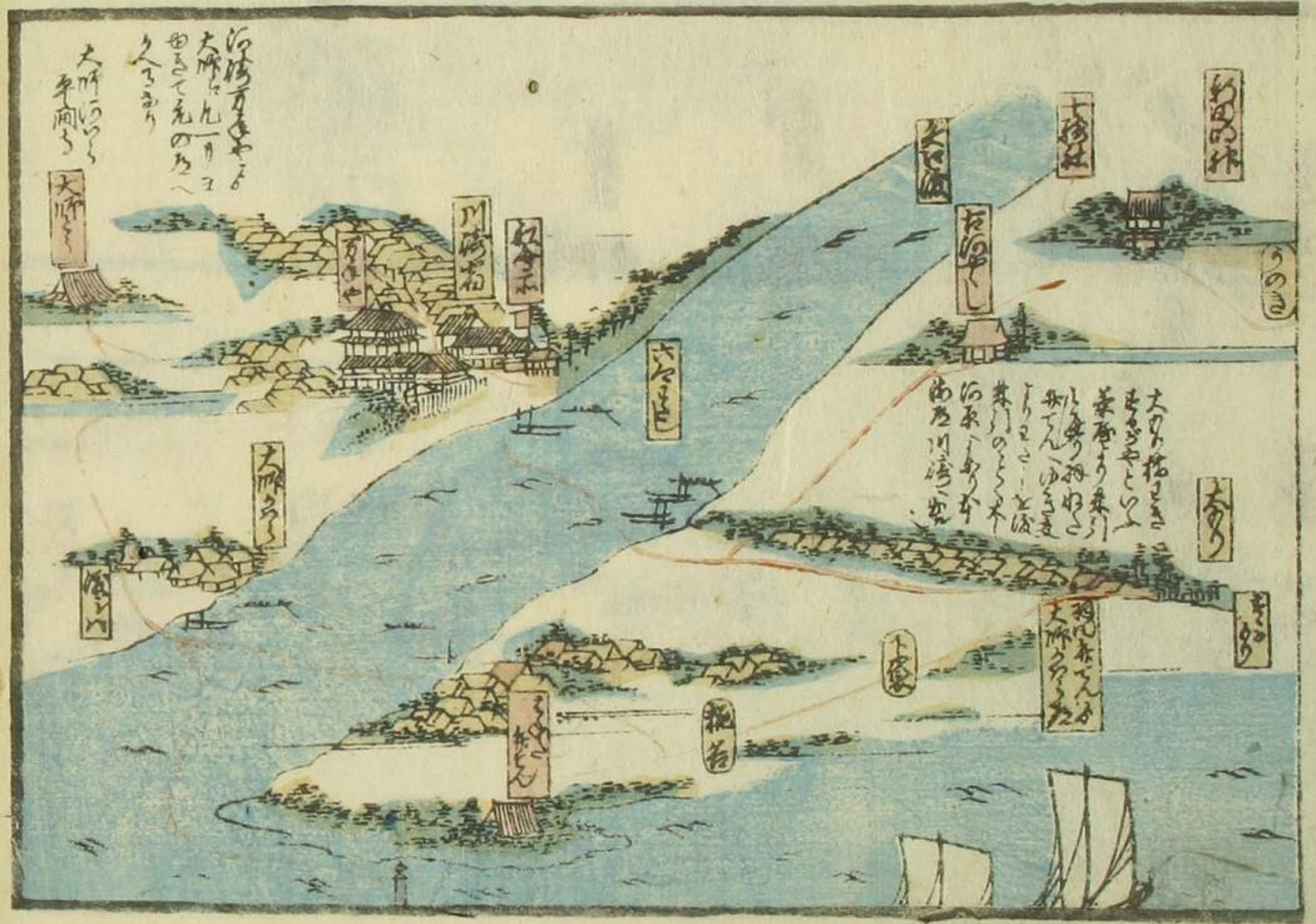
江戸諸道法

日本橋

御

城





脇道附

日とわらうひびきてたふきとりのつひ  
 色あざむきとるふきとるふきとるふきとる  
 往返のたまりとるふきとるふきとる

池上

池上舟のち 新田  
 矢に渡り 十  
 古川茶作

狗根田

狗根田 大野河原

金沢

金沢 徳金 浦賀  
 河津 河津 大正 繪巻

箱根

箱根七湯温泉とる  
 箱根七湯温泉とる  
 箱根七湯温泉とる

伊豆

伊豆 熱海温泉とる  
 伊豆 熱海温泉とる  
 伊豆 熱海温泉とる

伊豆

伊豆 熱海温泉とる  
 伊豆 熱海温泉とる  
 伊豆 熱海温泉とる

伊豆

伊豆 熱海温泉とる  
 伊豆 熱海温泉とる  
 伊豆 熱海温泉とる

大野河原  
 大野河原  
 大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

大野河原

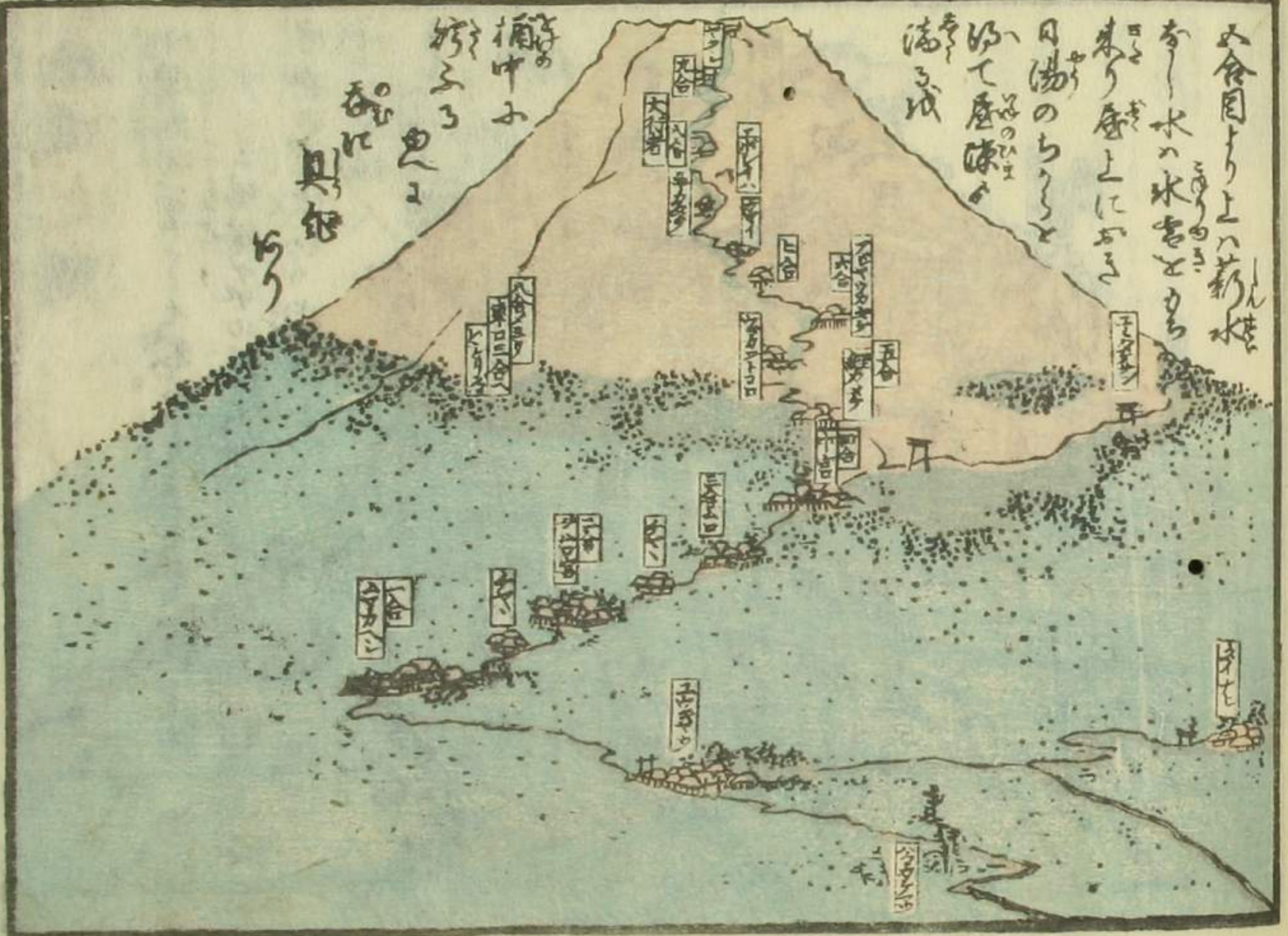
大野河原

大野河原

面山は甲辰の年の  
為南境の村小元五狐  
北は山小川の村之  
東の村小川の村之  
北の村小川の村之  
西の村小川の村之  
南の村小川の村之  
東の村小川の村之  
北の村小川の村之  
西の村小川の村之  
南の村小川の村之



その他  
小川  
村之

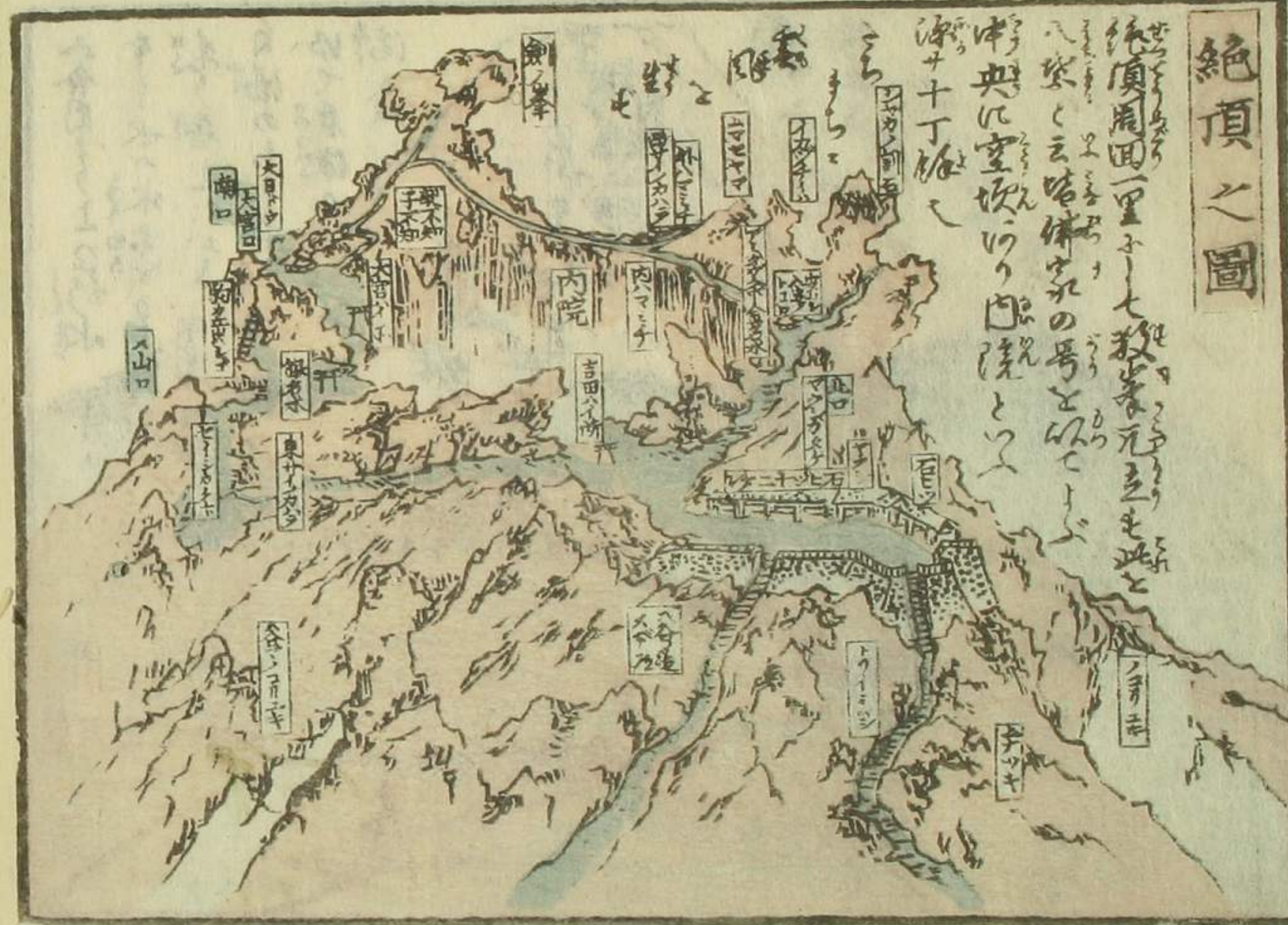


小川  
村之  
東の  
北の  
西の  
南の

小川  
村之  
東の  
北の  
西の  
南の

絶頂之圖

絶頂周圍一里半七教家元三を以て  
八家と云々諸佛の号を以てして  
中央に空坂のり内院と云  
深十丁也



岩室圖

此の山は一月九合目に  
御前寺と云ふ人休所あり  
一石のたんに牡丹林と云  
花のうらやま



スヘリ道



八合目  
七合目  
六合目  
五合目  
四合目  
三合目  
二合目  
一合目  
この山は一月九合目に  
御前寺と云ふ人休所あり  
一石のたんに牡丹林と云  
花のうらやま

留士登心務京全巻

後巻三の巻

同 隆頂真巻

登心入る巻

同 岩室巻

一冊又巻

同 登心入る巻

清心 三保松系務京

以麻呂巻

草子と神祇 久徳心

張府へ巻

秋葉心 光心心 周来心

四行川巻

新巻 豊川稲巻

更巻

系記巻 不問跡 七日めり

神祇佛圖古事東歷と記 出り中巻

二日と順巻 清中巻

系記と三巻の巻

大坂巻 小問巻

伊勢巻 系記巻

松坂より六巻巻

乃子巻

また順巻

武日本橋 品川 二里 九百七十三文

高桐橋より長廿八間

定む宿釈平三次

浙城巻

香巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻

橋巻





業と認め方使家く空しく毎月を送りむらへせり  
 四十二歳乃年ふあり候と云厄清除と申は小のり  
 なるに何の敷大所哉と曰嘉音在唐と曰自く我の青  
 像と取く有縁の地ふ深き生へし、誓ひ海中ふ投せ  
 後之へく海底ふありし、今幸ひふ浦に止る汝烟  
 と下しを毛のめくは地に他意減りき厄除と除  
 威一人の不敬者満ちしめんと漢人受元て書其の  
 こと、一後の的のよとて海上と見は出ふ一條の美的  
 轉たるのりそふふと書く綱と云わ下せふ果して  
 岩中に見るふの岩見ふ嘉聲も遠なる大所の其像を  
 ぬり何と一字と創立し平居ちと号せ

八丁倉とて高方松と本より・也とと搦といふ搦二丁の  
 ・市場業ありふやせ入ふふの十二天は行は神流  
 船然と種風ふあり・新着い色川・の村・子町のたふ  
 依く木の村の社あり・市場村たし方ふ心と云ふちふ親書  
 堂あり中考子子大照の像あり宛約し此法丈は寸法武刀  
 の念持紅といふ踏見踏見搦長廿七寸生麦白と村の  
 旗の橋とて養徳の壺流法と云と云付ふた方ふ寄村ふ  
 子と親書子生ふ東福ふありは、多々も氣流と又寄書  
 るとく三甲後ふ出村と流たふ系子安村新若浦書と云

神奈川 江戸七五 下り 向村書清

所が海石井源の給水源をたか新町が為の町道に下り  
 奥名又蒼々々々井決まて更々神奈川の取と云煙井決止  
 海流なり流る橋とくよと云本と云書流り 西島橋

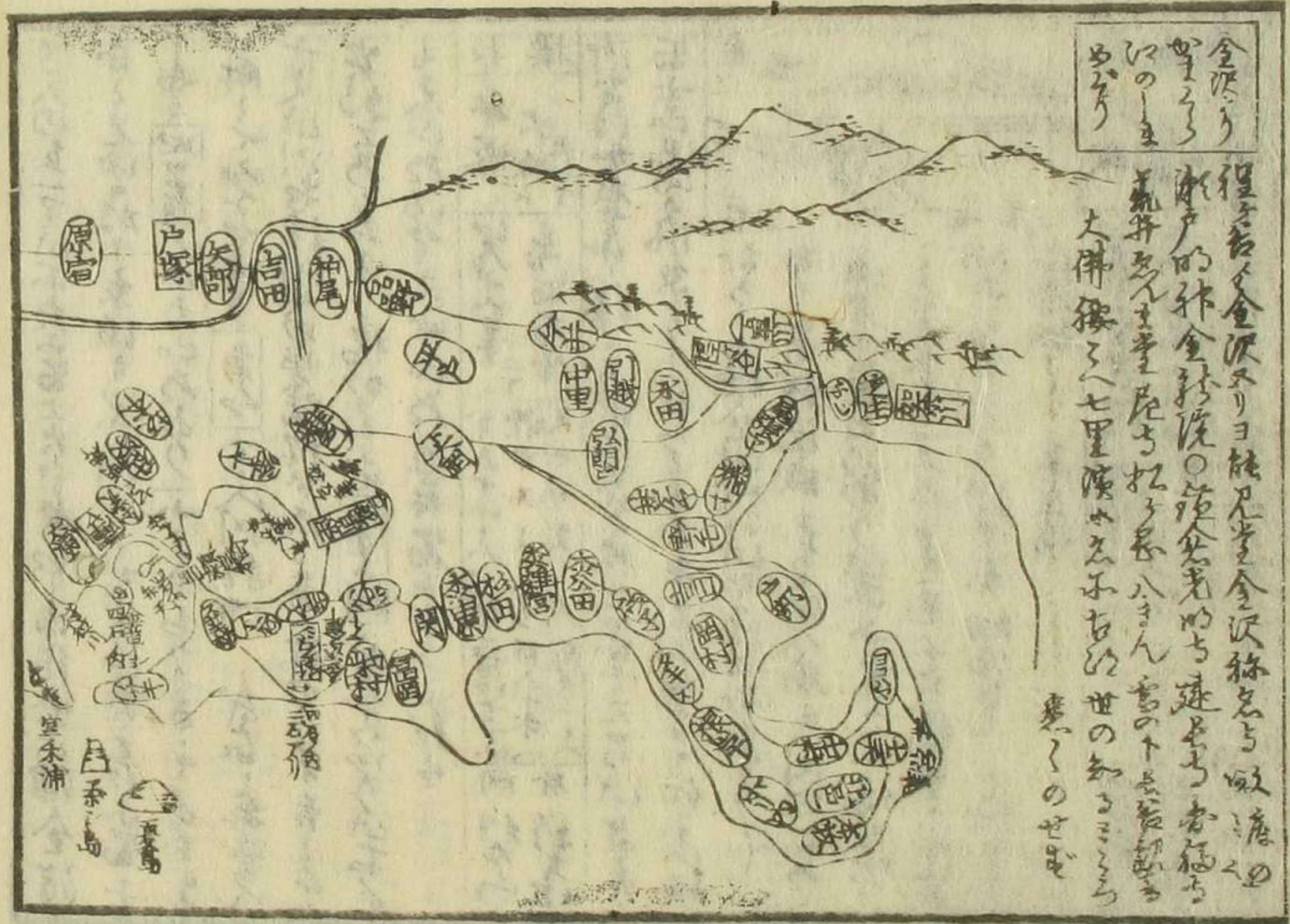
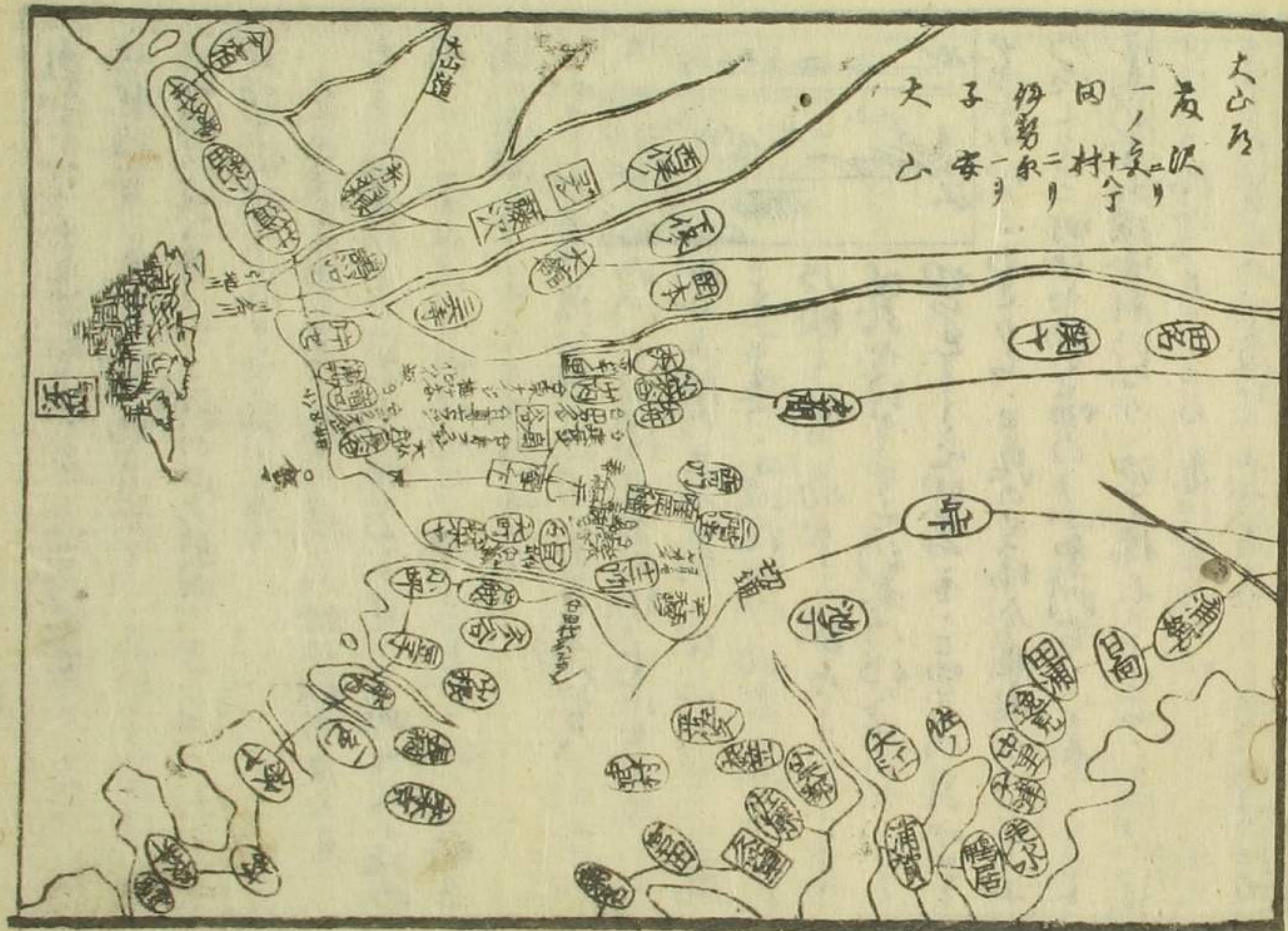
川巻と云ふらふ山根と流り水と云 地を大山と云ふ  
 むらむらむら流り・左子様と云ふありいりま  
 鳴りて神奈川の邊と云ふ邊の海邊と袖と浦と云  
 素直と云ふふ・右く方丁計をふちて城坂と  
 けりあり三丁計をうて小机の城のたふたふ  
 同ふありし中へ左田乃澄渡り多し・袖のり  
 同ふの南芝生村山ふ富士濱居り社あり此地  
 一の晴窓と云と富士の人元と云ふ昔の  
 富士の麓に地橋ありしとら仁田田原太夫ふ命せしと云  
 トありありと云と云わしと云ふ候ふけいふ入檢出と云  
 といはふ・芒野田横濱村小淵乾每候夫あり社あり



程々谷 江戸八五 下り 向  
 二五五 八十二文 廿九文  
 六十四文 三十八文

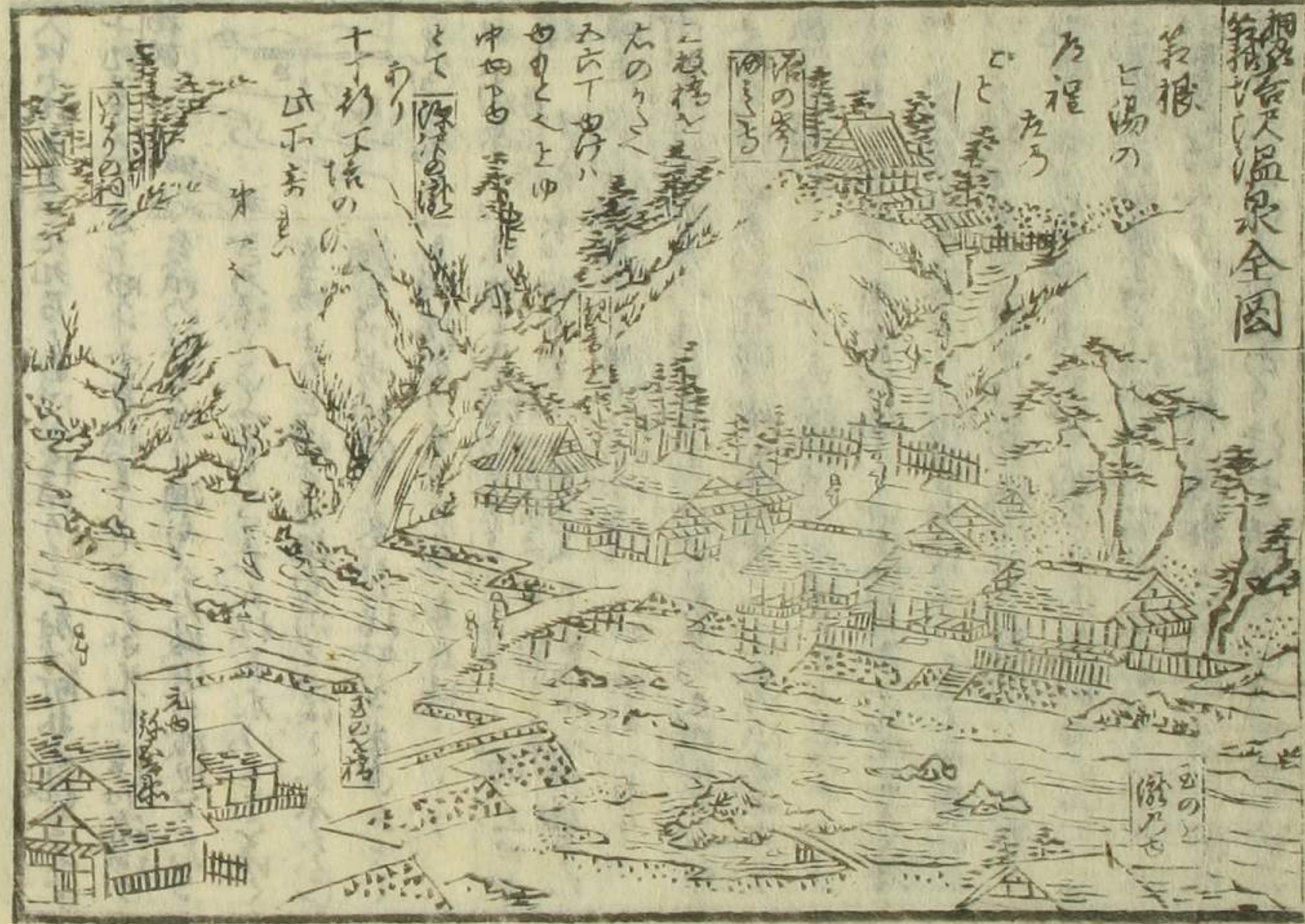
新在時新在時と云ふ坂乃新在時花の時村本町



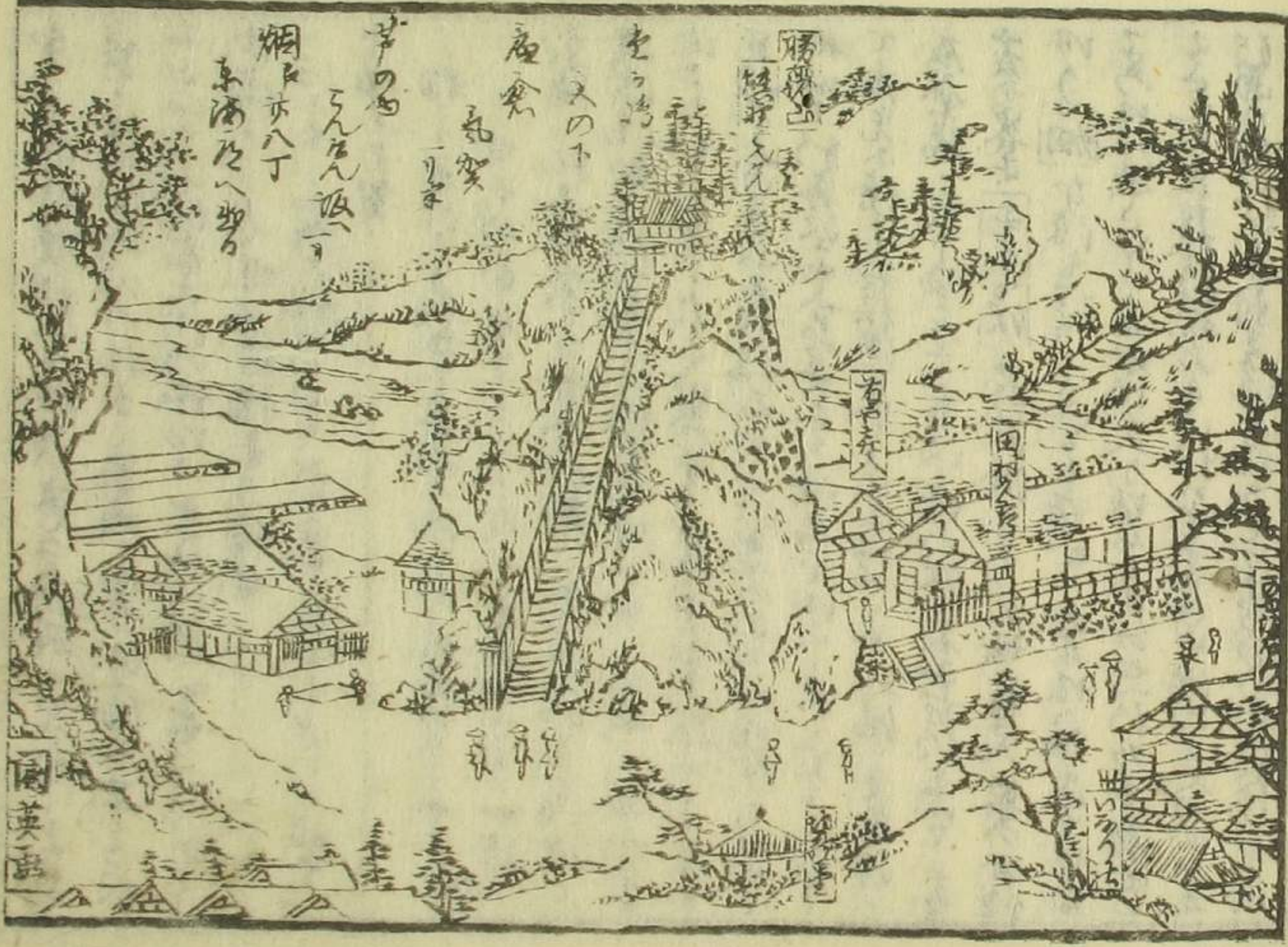




箱根温泉全図



箱根  
七湯の  
乃程  
こと  
二股橋  
右のうへ  
六丁  
中野  
とて  
十丁  
山



箱根  
七湯の  
乃程  
こと  
二股橋  
右のうへ  
六丁  
中野  
とて  
十丁  
山

あり二枚橋の下の流をいそぎて河原とよわたりて  
たの湯をたけり種をくち取らる。金湯のまきり  
おふり小橋家又の堰のり宋後法師の文を二巻に  
おてけり。一は堰の遺像あり辞世  
はるか一は橋の林のまわりおふりてまきり  
遺像の自賛

後一巻は三巻のまきり世のまきりおふりて  
廿二巻のまきり。おふりてまきり。おふり  
宋後法師の文をくち取らる。金湯のまきり  
遺像の自賛  
後一巻は三巻のまきり世のまきりおふりて  
廿二巻のまきり。おふりてまきり。おふり  
宋後法師の文をくち取らる。金湯のまきり  
遺像の自賛

いふにたし。此のまきり。真のまきり。おふりて  
廿二巻のまきり。おふりてまきり。おふり  
宋後法師の文をくち取らる。金湯のまきり  
遺像の自賛

小児  
みんのおまきり

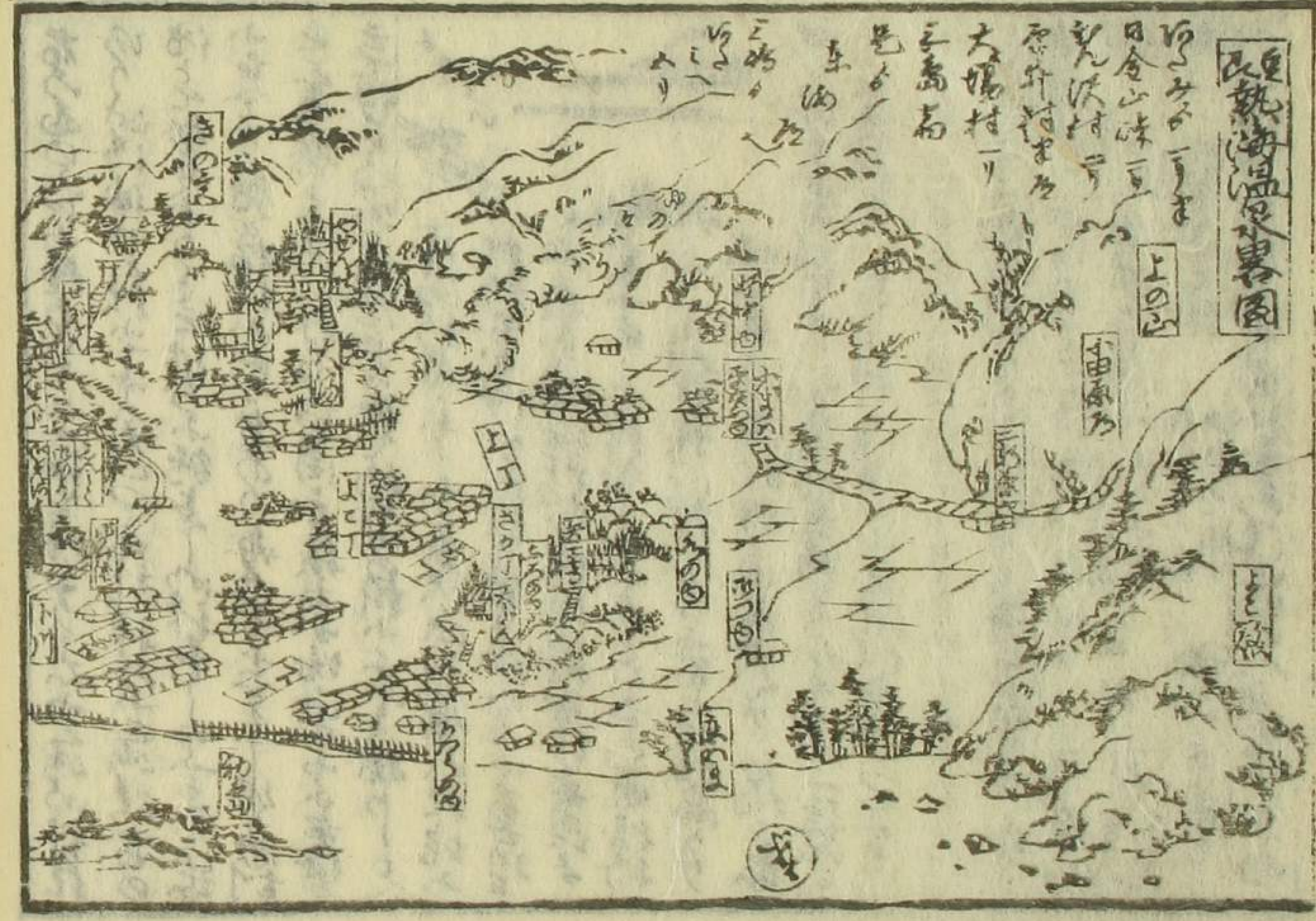




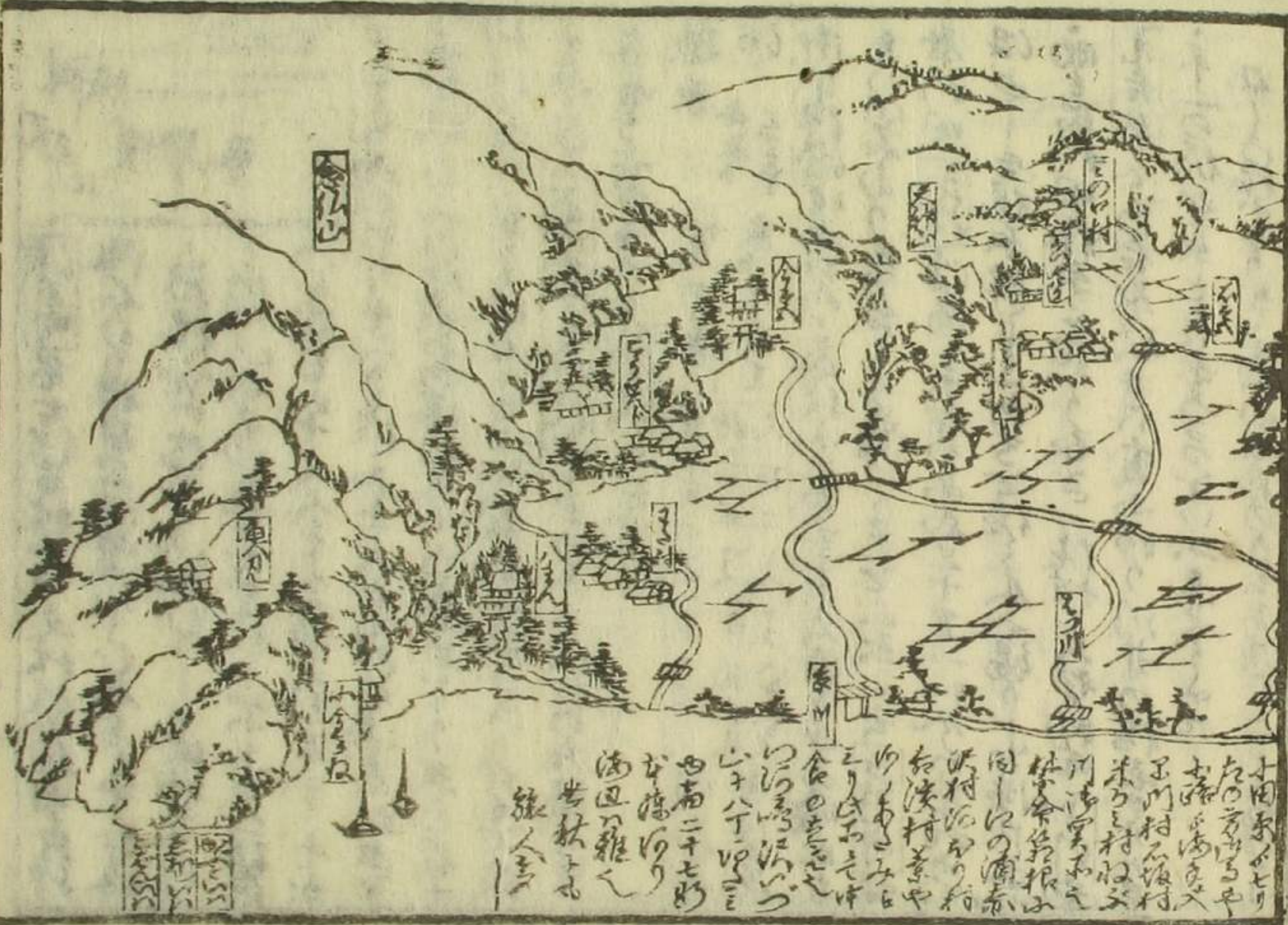


日輪海邊集景圖

日輪山味豆  
大場村  
原村  
東山  
三木  
三木



十田  
左の  
右の  
米の  
川  
同  
村  
右  
左  
三  
合  
山  
西  
海  
若  
旅







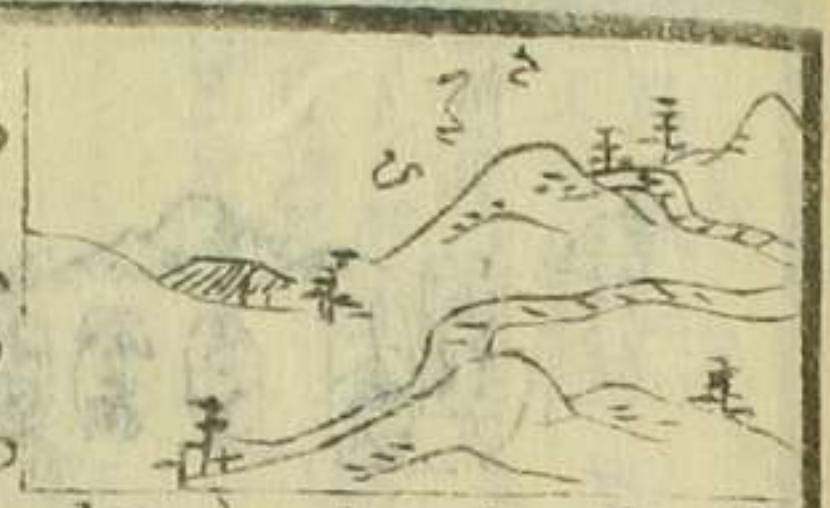
在物粟乃粉り申丸餅を煙草箱下の土に  
 蓄り長年成けふと毒のなるはく又馬  
 土川の清瀬とて八丁を一丁と称する  
 あり申丸乃粉り古海を八丁橋辺  
 里小いけふ久家七人坂 三々ん毒登  
 東之場

猪浦 戸数七十五 年六十六文下  
 由井 戸数八十八 年三十三文下  
 戸数八十八 年三十三文下

所が海平長久清歌申丸の立場より小丸力ふり人  
 飯といふありまに清波のり取の水といふ又た乃小丸上  
 候といふこに小丸松を清り昨の場ありと云ふこに  
 的村あり丸清波を向村あり久家松波の川向村あり  
 ぬ市村あり候と云ふはたふり候と云ふ

後由井 戸数八十八 年三十三文下  
 由井 戸数八十七 年三十三文下

所が海平長久清歌申丸の立場より小丸力ふり人  
 飯といふありまに清波のり取の水といふ又た乃小丸上  
 候といふこに小丸松を清り昨の場ありと云ふこに  
 的村あり丸清波を向村あり久家松波の川向村あり  
 ぬ市村あり候と云ふはたふり候と云ふ  
 所が海平長久清歌申丸の立場より小丸力ふり人  
 飯といふありまに清波のり取の水といふ又た乃小丸上  
 候といふこに小丸松を清り昨の場ありと云ふこに  
 的村あり丸清波を向村あり久家松波の川向村あり  
 ぬ市村あり候と云ふはたふり候と云ふ



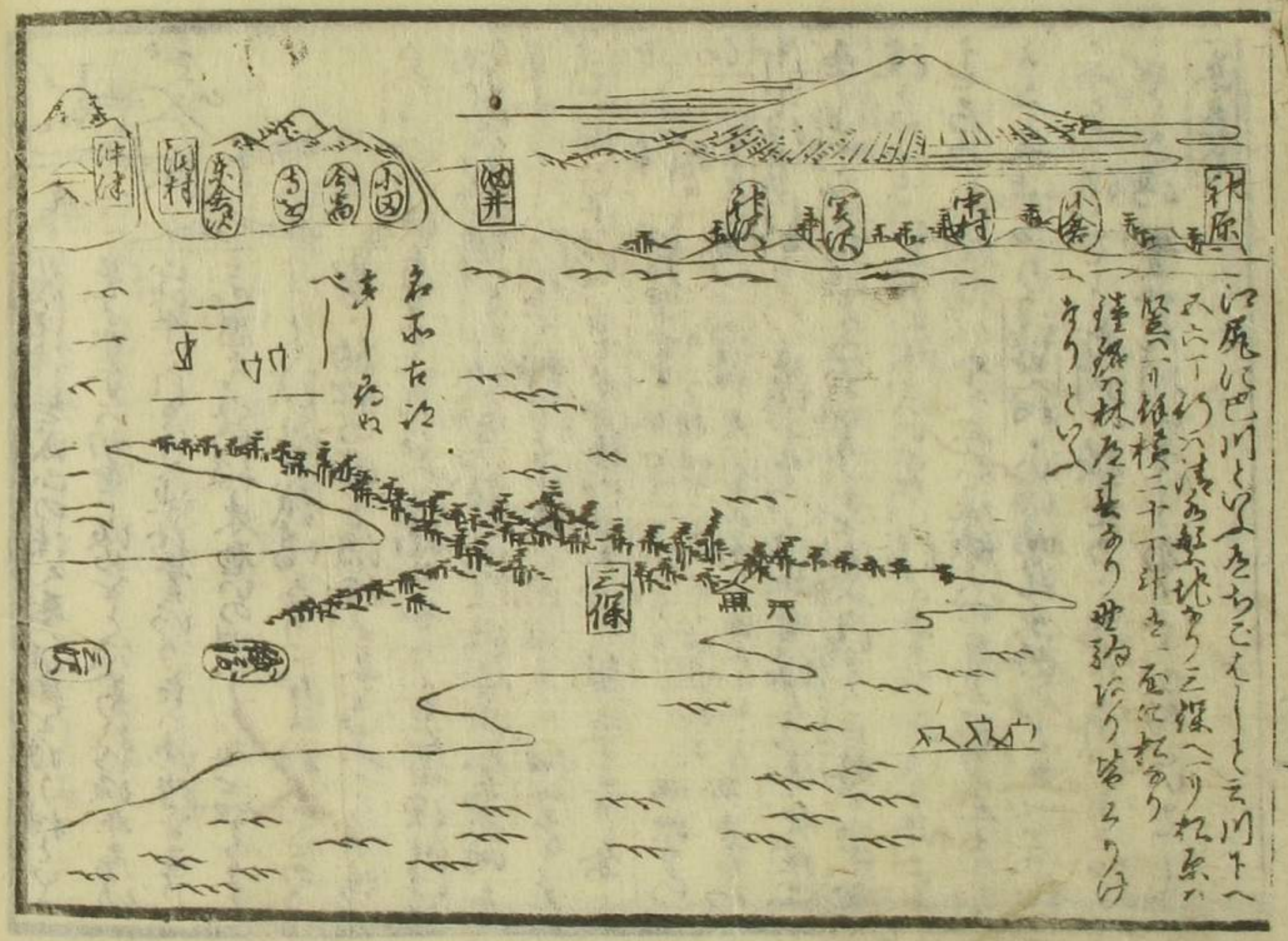
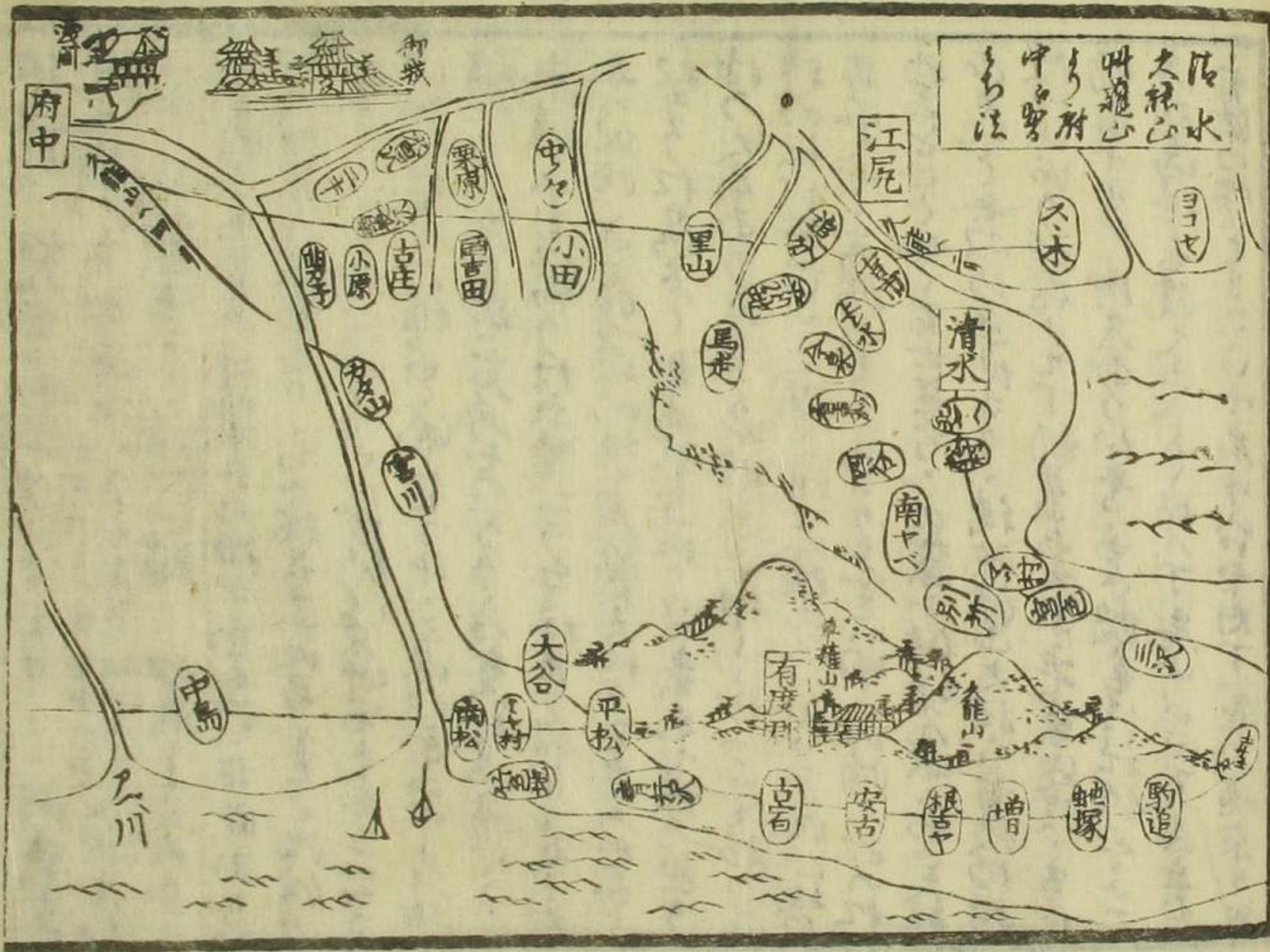
清波のり取の水といふ又た乃小丸上  
 候といふこに小丸松を清り昨の場ありと云ふこに  
 的村あり丸清波を向村あり久家松波の川向村あり  
 ぬ市村あり候と云ふはたふり候と云ふ

所が海平長久清歌申丸の立場より小丸力ふり人  
 飯といふありまに清波のり取の水といふ又た乃小丸上  
 候といふこに小丸松を清り昨の場ありと云ふこに  
 的村あり丸清波を向村あり久家松波の川向村あり  
 ぬ市村あり候と云ふはたふり候と云ふ

所が海平長久清歌申丸の立場より小丸力ふり人  
 飯といふありまに清波のり取の水といふ又た乃小丸上  
 候といふこに小丸松を清り昨の場ありと云ふこに  
 的村あり丸清波を向村あり久家松波の川向村あり  
 ぬ市村あり候と云ふはたふり候と云ふ

所が海平長久清歌申丸の立場より小丸力ふり人  
 飯といふありまに清波のり取の水といふ又た乃小丸上  
 候といふこに小丸松を清り昨の場ありと云ふこに  
 的村あり丸清波を向村あり久家松波の川向村あり  
 ぬ市村あり候と云ふはたふり候と云ふ

所が海平長久清歌申丸の立場より小丸力ふり人  
 飯といふありまに清波のり取の水といふ又た乃小丸上  
 候といふこに小丸松を清り昨の場ありと云ふこに  
 的村あり丸清波を向村あり久家松波の川向村あり  
 ぬ市村あり候と云ふはたふり候と云ふ



江尾は巴川と云ふをちとて云川下へ  
 入らば川の深さ地味より三保へは  
 堅固な橋二十丁ほどをわたらば  
 僅かに林を過ぎり世約の谷を  
 たりと云ふ



本より河内川の西の麓に城を築くを考ふ秋に...

積糸子 河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

長崎の古跡あり... 長崎の古跡あり...



河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

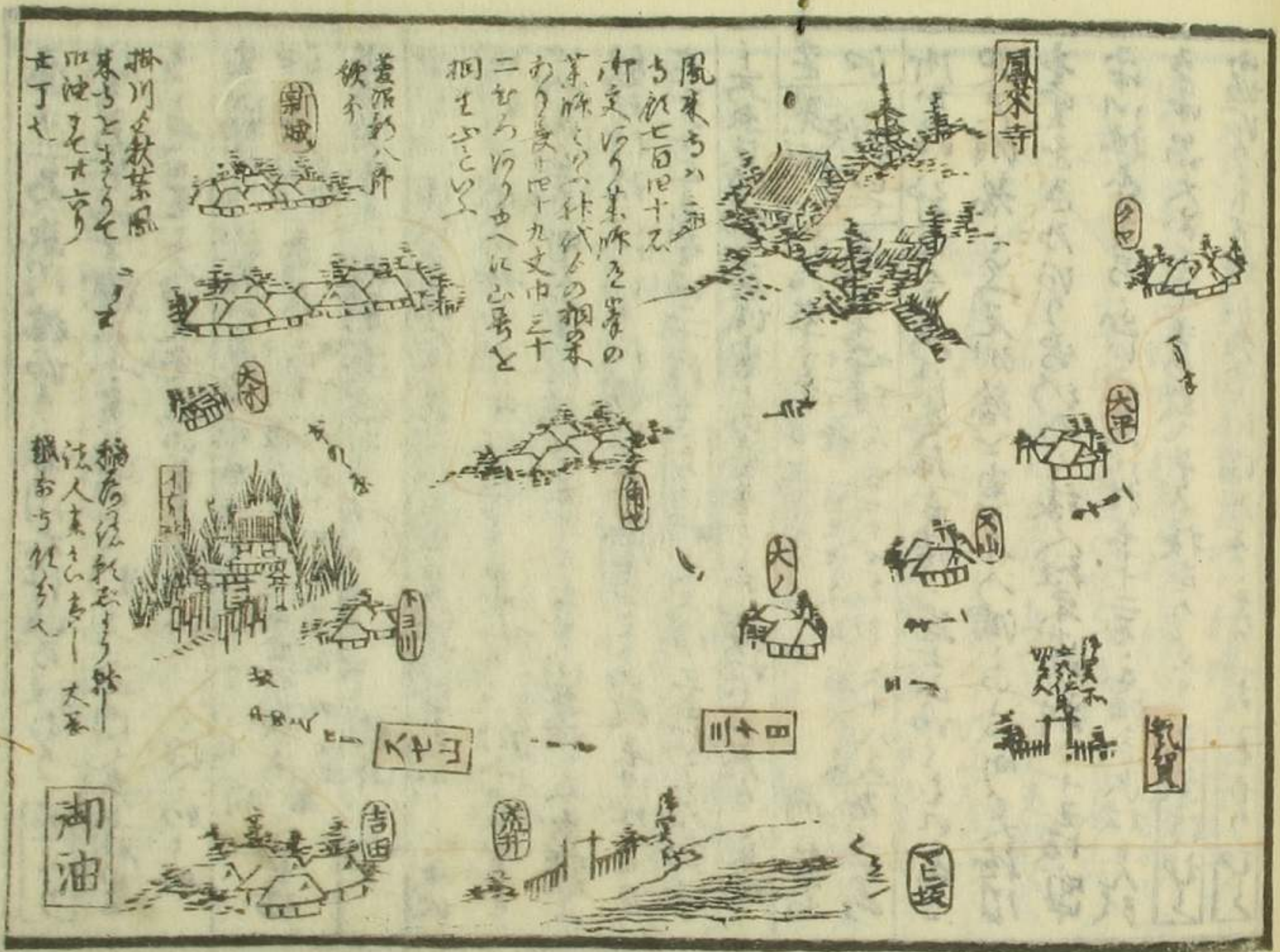
河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同



河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同

河内 二百八十五丁 同 二百八十五丁 同





掛川公教茶屋  
東と西とありて  
川は七ツカ  
士丁

蓋原八所  
橋

鳳来寺の  
ち七百四十二  
軒ありて  
茶屋ありて  
ありて  
二軒ありて  
桐生

橋ありて  
法入ありて  
橋ありて

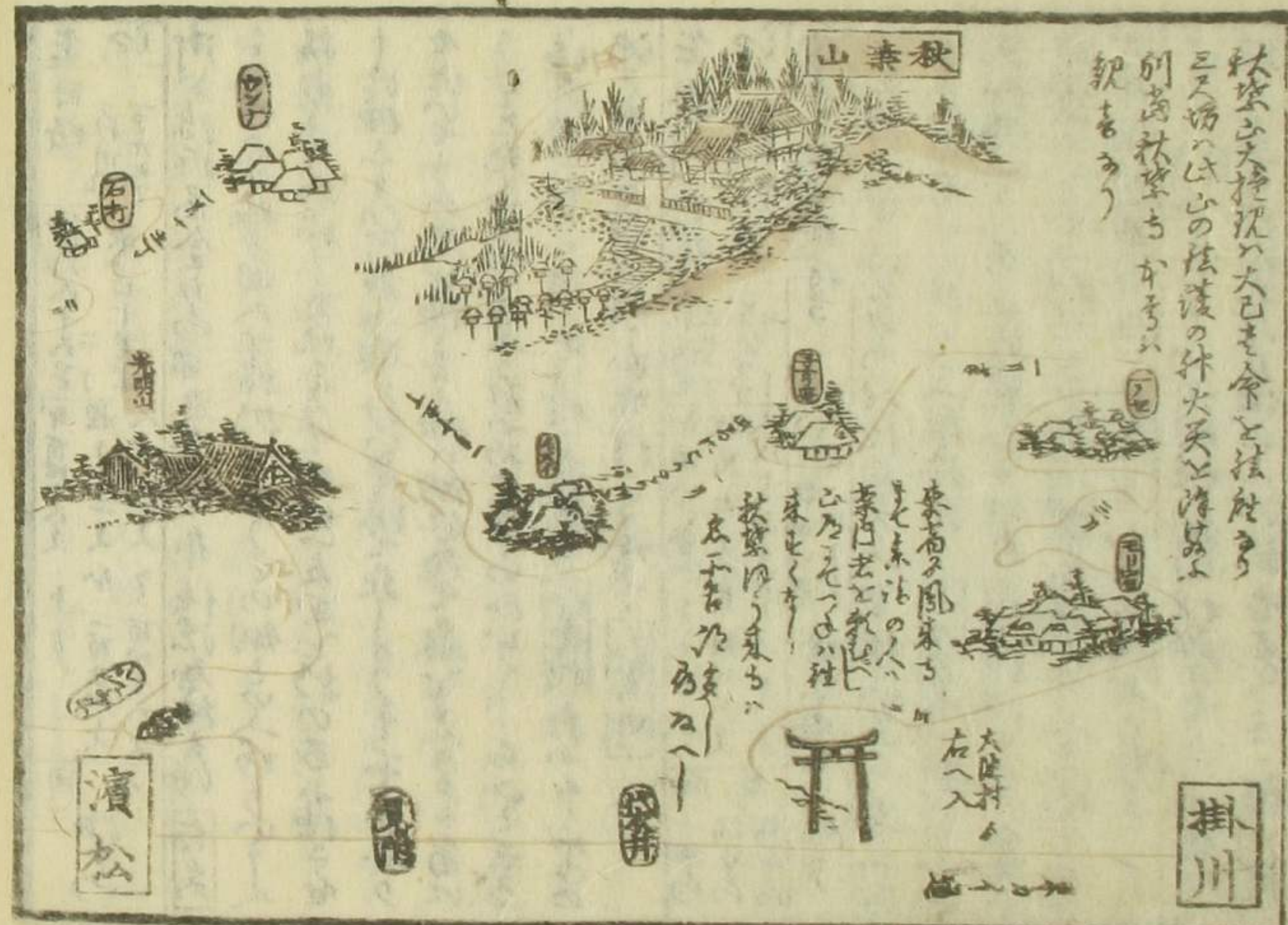
御油

四ツ三

四ツ三

吉田

長



秋葉山

秋葉山大権現の  
三ノ坊の  
別当秋葉  
親吉

東有る  
茶白老  
末正  
衣子

門

右へ入

濱松

掛川



長十二馬 京川橋あり 齊川太に流る仕あり なるり  
はき花とほと織あふ 妻名家二軒くつの内たふ好里  
ちと七日と上人の父黄名の重名のちありくつへのりや

を盛井 江戸六十九里 廿百八十二丁  
江戸 足利 六十六里 廿百八十二丁  
江戸 一里 廿百八十二丁

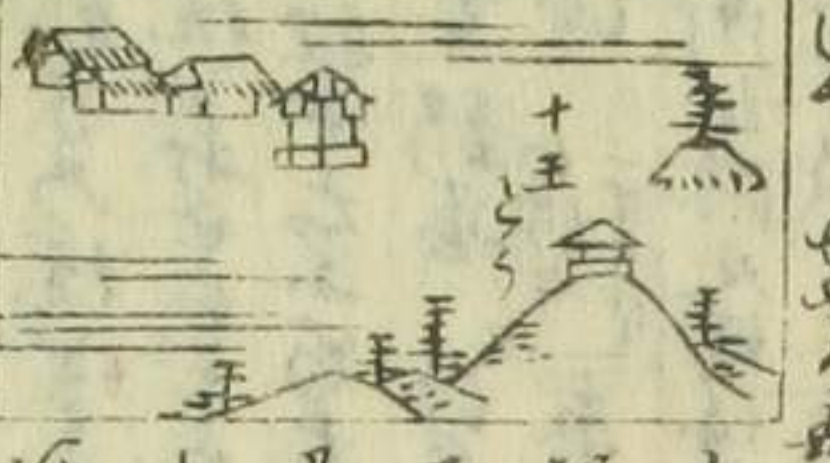
所が池田公長が太田公長同公長湯背に地を在す一七中比  
田ありて家の如く一七中比に大なる泉ありは故不盛井と  
いふ所を町をいふに橋を長サ十三里川舟村本盛井と  
懸置け取らむり行領に十五馬馬馬この橋長廿四十七馬  
長サ十三馬置坂二丁程をこの村大久保三和松うんをこの  
上高松城ありて坂ありての長をいふ 漢松をいふ 本坂

是見附 江戸六十九里 廿百八十二丁  
江戸 足利 六十六里 廿百八十二丁  
江戸 一里 廿百八十二丁

所が池田公長が太田公長同公長湯背に地を在す一七中比  
田ありて家の如く一七中比に大なる泉ありは故不盛井と  
いふ所を町をいふに橋を長サ十三里川舟村本盛井と  
懸置け取らむり行領に十五馬馬馬この橋長廿四十七馬  
長サ十三馬置坂二丁程をこの村大久保三和松うんをこの  
上高松城ありて坂ありての長をいふ 漢松をいふ 本坂

是見附 江戸六十九里 廿百八十二丁  
江戸 足利 六十六里 廿百八十二丁  
江戸 一里 廿百八十二丁

所が池田公長が太田公長同公長湯背に地を在す一七中比  
田ありて家の如く一七中比に大なる泉ありは故不盛井と  
いふ所を町をいふに橋を長サ十三里川舟村本盛井と  
懸置け取らむり行領に十五馬馬馬この橋長廿四十七馬  
長サ十三馬置坂二丁程をこの村大久保三和松うんをこの  
上高松城ありて坂ありての長をいふ 漢松をいふ 本坂



小野村くは池田公長湯背に地を在す一七中比  
田ありて家の如く一七中比に大なる泉ありは故不盛井と  
いふ所を町をいふに橋を長サ十三里川舟村本盛井と  
懸置け取らむり行領に十五馬馬馬この橋長廿四十七馬  
長サ十三馬置坂二丁程をこの村大久保三和松うんをこの  
上高松城ありて坂ありての長をいふ 漢松をいふ 本坂

是見附 江戸六十九里 廿百八十二丁  
江戸 足利 六十六里 廿百八十二丁  
江戸 一里 廿百八十二丁

所が池田公長が太田公長同公長湯背に地を在す一七中比  
田ありて家の如く一七中比に大なる泉ありは故不盛井と  
いふ所を町をいふに橋を長サ十三里川舟村本盛井と  
懸置け取らむり行領に十五馬馬馬この橋長廿四十七馬  
長サ十三馬置坂二丁程をこの村大久保三和松うんをこの  
上高松城ありて坂ありての長をいふ 漢松をいふ 本坂

是見附 江戸六十九里 廿百八十二丁  
江戸 足利 六十六里 廿百八十二丁  
江戸 一里 廿百八十二丁



三二川  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同

河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同

河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同



河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同

河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同

河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同  
河 長七十里 下り 同



二村山宮庭も清く桂林  
之て所来平百播不上運の坊小

名物  
家系もなる

あふ居の基



元高・東乃系・相の本・津・東とてさるが、  
三浦山今の中と社を言はれたるを言ふに、  
心と云ふは津望しむる白雲渡りの御上り  
の御成りたるは、あふ居の基と通ふこと  
の言ふに、その言ふに、  
三浦山今の中と社を言はれたるを言ふに、  
心と云ふは津望しむる白雲渡りの御上り  
の御成りたるは、あふ居の基と通ふこと  
の言ふに、その言ふに、

三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈

三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈

いさむら 太平村 助道橋のりあけのせ成る  
大樹は安院津のまを橋がわらうと平野田村也

三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈

三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈

三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈

三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈

三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈

三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈

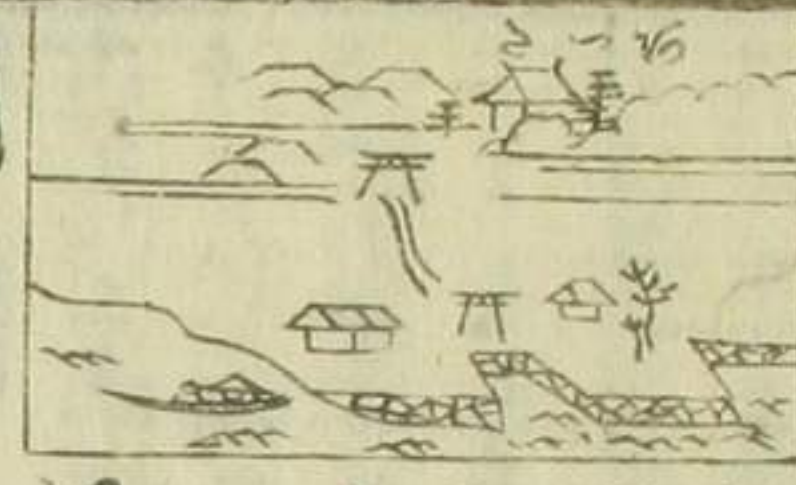
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈  
三浦川 江戸七十里 四百廿一丈



の末と係りたるの里と云々 領出町

尾宮 領出町 領出町 領出町

所が津南の領出町... 領出町



領出町 領出町 領出町

領出町 領出町 領出町

領出町 領出町 領出町

領出町 領出町 領出町

次五 松平城守 八丁世 城守(江内)  
松平城守 八丁世 城守(江内)  
松平城守 八丁世 城守(江内)

所は河原源七船倉也。其の東に松平城守の墓あり。其の西に松平城守の墓あり。其の南に松平城守の墓あり。其の北に松平城守の墓あり。

河原源七船倉也。其の東に松平城守の墓あり。其の西に松平城守の墓あり。其の南に松平城守の墓あり。其の北に松平城守の墓あり。

河原源七船倉也。其の東に松平城守の墓あり。其の西に松平城守の墓あり。其の南に松平城守の墓あり。其の北に松平城守の墓あり。

河原源七船倉也。其の東に松平城守の墓あり。其の西に松平城守の墓あり。其の南に松平城守の墓あり。其の北に松平城守の墓あり。



十丁程の松平城守の墓あり。其の東に松平城守の墓あり。其の西に松平城守の墓あり。其の南に松平城守の墓あり。其の北に松平城守の墓あり。

河原源七船倉也。其の東に松平城守の墓あり。其の西に松平城守の墓あり。其の南に松平城守の墓あり。其の北に松平城守の墓あり。

河原源七船倉也。其の東に松平城守の墓あり。其の西に松平城守の墓あり。其の南に松平城守の墓あり。其の北に松平城守の墓あり。

河原源七船倉也。其の東に松平城守の墓あり。其の西に松平城守の墓あり。其の南に松平城守の墓あり。其の北に松平城守の墓あり。

熊

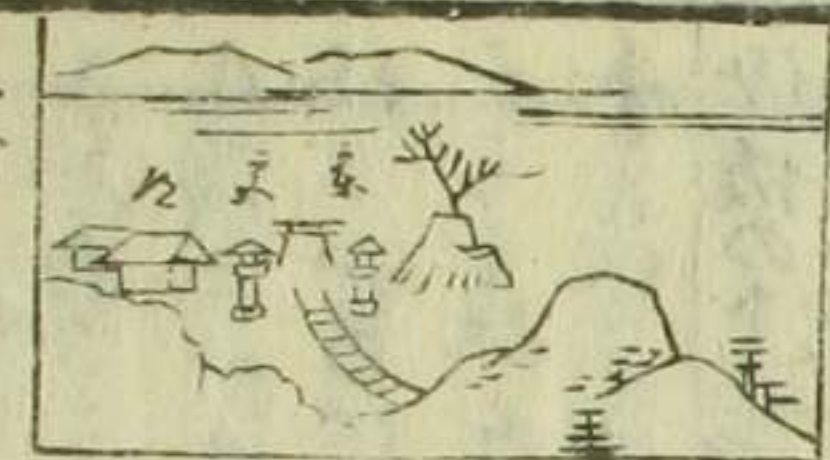
十二孫古漢せりを新秋を正元の金から  
宮石の内へ不かりとそ茶師と歌へ其  
伝わりと持縁記に有る茶師古の白梅の  
内ふ能頼祠と又義経道標といふ田畑  
の中にありてうをさ町・うを川庄の川  
ては新藤川のちりせり

住	江原百重	千百三十三文	下リ
住	北六丁	千八百七十五文	千八百七十五文
住	北三丁	千六百六十五文	千三百五十五文

新藤庄 沢田吉右衛門 高秋名物焼茶小儀入りの  
十丁年本吉文村に白多塚といふ石目本武吉のみ  
の紀へてみ河原中宿岡田下 **東下** 八王子社を  
岡泉川より橋七十石 泉村とて村流吉村川合む  
橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の  
・トてへの茶登町といふ **茶登**

住	無心	江原百重	千百八十五文	下リ
住	北三丁	千六百六十五文	千三百五十五文	同藤橋
住	北六丁	千八百七十五文	千八百七十五文	同藤橋

新藤庄 橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の  
十八丁の岡田川にありての東といふ河村の村垣の  
新藤庄 橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の



徳也・小村村橋よりたに城治をたにふ所より是京が  
系又徳乃人足ふ山園道十地王寺園をむく村 千打むか  
久保園 二丁 千打むか 二丁 千打むか 二丁 千打むか  
二丁 千打むか 二丁 千打むか 二丁 千打むか  
新藤庄 橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の  
新藤庄 橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の  
新藤庄 橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の

ちゆりかき屋敷の地蔵をいふ世の地蔵  
名有り同地蔵をいふ再興の時一休和尚  
あり一休和尚と名あり一休地蔵といふ  
新藤庄 橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の  
新藤庄 橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の  
新藤庄 橋をたに久へる河村庄 千白子 千石 和国の村垣の



ちねとを物へさしとより里人に授け是と地裁のありに  
 名よとの里人ゆりあつぬく一里ハたさあふると  
 今も麻のまきとありはまると人毛のたねはり  
 きたあり・市社瀬村作り名坂たにき授け同村あり名  
 本こびり特許法眼車は通符の村は山の風景と画に  
 物一ふりにきと授けとせ・あつの本村は元常村あり  
 ぶこ一味おり・桑登あり **皆掛** 世老結老おし世  
 専たにさう入やけ地裁むり坂あり

何坂の下	四百八十丁	三百八十丁	同
古心	系十七丁	二百一十一丁	系十七丁
二丁	十三丁	二百六十五丁	二百六十五丁

新井海老林が清高は此廉の下へ古へはかのかの村の  
 上し青りの妻のまゝあつて今の地に移すまの老乃  
 村跡は廣く名こり・お津田六郎といひは後志村跡  
 を跡跡とほが若乃内は小橋三つを町を坂進のるた・まか  
 川とえは川古へはあつてこさへ渡り坂八十瀬川と云

海初といふにたぬ此廉川八瀬もまらぬ月のに 後成を  
 元坂村岩登の親をゆりけ知古へは川端へは 洪あつて  
 流を交安の申しおは種と云 此廉坂八丁けりき坂へ  
**此廉味** 上りたに此廉の村を秋津の生去村といひは種ハ  
 天武天皇大友の皇子と戦ひいふと専りあつて 時相と種



天皇と専りあつてと授けたりし種  
 と云又坂の上田村元いふは鬼とたつらけ  
 一時女と種ハ女流派ハ女流九云鬼と云  
 織後たりといふをより坂の地といふ  
 田村元織後と種ハと云 伊勢とを種  
 の流したに田村元伊勢と種ハと云

乃織造とせしと云云子心伊勢の浦と云いふのをとて海  
 上の風と考へ渡海中と云古に此廉をそまらぬに国小區  
 と云 **沢村** 一丁の半葉登を上の本 山中久の村 半葉登  
 村をそまらぬり 上中村 大平村 作を是と種ハと云  
**猪の鼻** いのちを味上下坂へり坂と云坂と云坂の下たに  
 松二本ありにふらるる塔を里民同昔の妖物人を種ハ者  
 は鬼心傍り成と授けあつて妖怪をそまらぬに在坂と云  
 さういふふら坂村は和名を種ハと云 田村元はし  
 河の橋後と云ふありありと川へ川と渡りてはに名種ハ  
 類に正位田村大の種ハと云いふ村をそまらぬに種ハ者

近	古心	四百九十丁	四百九十丁
仁心	系十七丁	二百一十一丁	二百一十一丁
系十七丁	十三丁	二百六十五丁	二百六十五丁

新井海老林が清高は此廉の下へ古へはかのかの村の  
 上し青りの妻のまゝあつて今の地に移すまの老乃  
 村跡は廣く名こり・お津田六郎といひは後志村跡  
 を跡跡とほが若乃内は小橋三つを町を坂進のるた・まか  
 川とえは川古へはあつてこさへ渡り坂八十瀬川と云

的社は末流の河見より名物産又田村川といふ名  
 流あり **西五毛** 村は尾川外の白川に云流り  
 松の尾 いもつけの河の中二番の名物と云まの村  
 の主流あり市場村大社村の側と徳和村と云大の  
 世の所といふ名物やま今高の川小橋といふと  
 流り多洗水といふ今在村小里村新庄村 **桑林** い  
 心村といふ一斗に毎春脊を魚を桑林の力うふ  
 或は腰子の着洗水といふ末文の草忌て是といふす

近水に 江戸百十三里 江戸百一十二下り  
 江戸百一十二下り 江戸百八十九文  
 江戸百九十二下り 江戸百九十九文  
 江戸百九十九文 江戸百九十九文

江戸百十三里 江戸百一十二下り  
 江戸百一十二下り 江戸百八十九文  
 江戸百九十二下り 江戸百九十九文  
 江戸百九十九文 江戸百九十九文

江戸百十三里 江戸百一十二下り  
 江戸百一十二下り 江戸百八十九文  
 江戸百九十二下り 江戸百九十九文  
 江戸百九十九文 江戸百九十九文



江戸百十三里 江戸百一十二下り  
 江戸百一十二下り 江戸百八十九文  
 江戸百九十二下り 江戸百九十九文  
 江戸百九十九文 江戸百九十九文

江戸百十三里 江戸百一十二下り  
 江戸百一十二下り 江戸百八十九文  
 江戸百九十二下り 江戸百九十九文  
 江戸百九十九文 江戸百九十九文

江戸百十三里 江戸百一十二下り  
 江戸百一十二下り 江戸百八十九文  
 江戸百九十二下り 江戸百九十九文  
 江戸百九十九文 江戸百九十九文

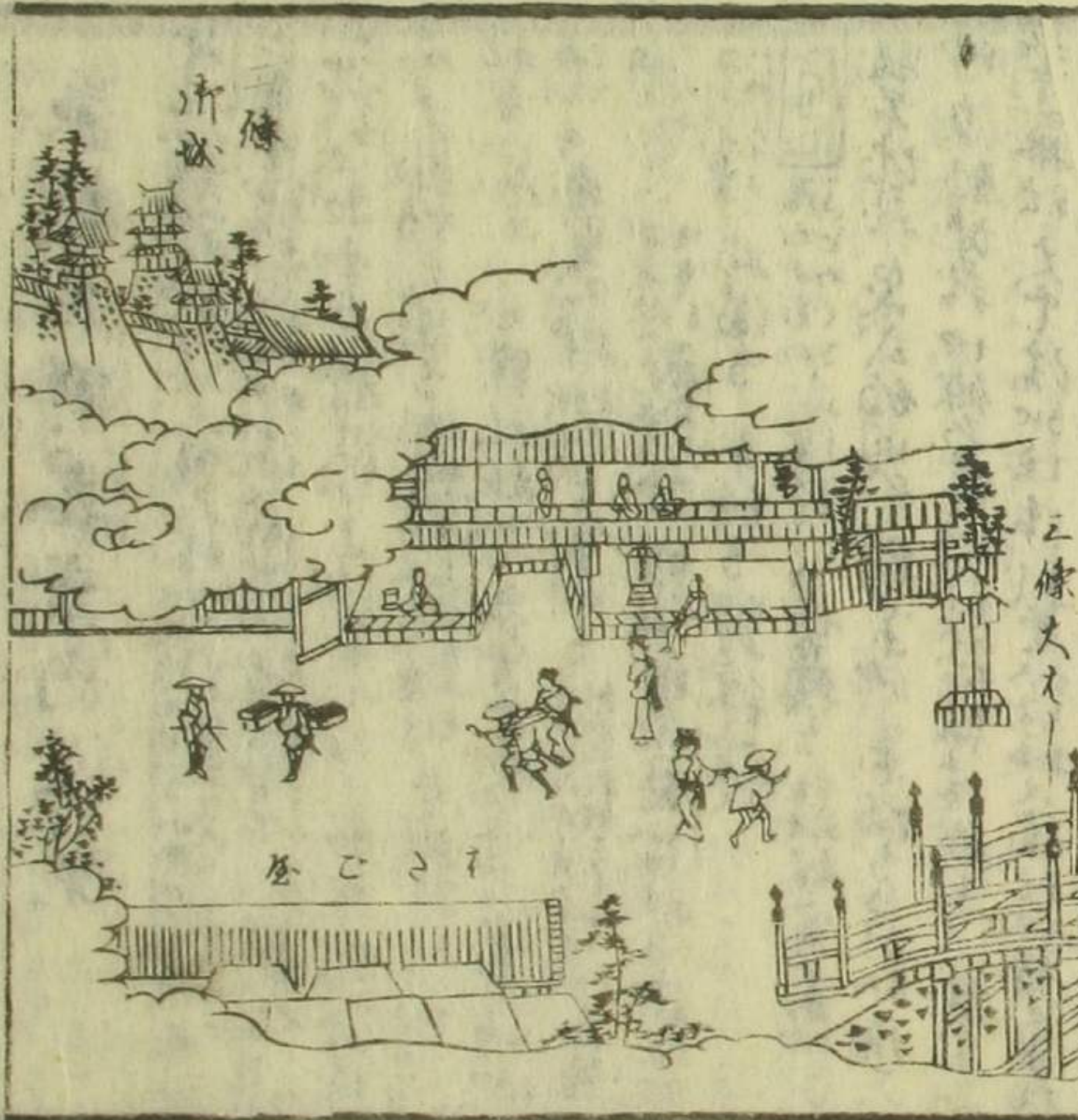




西の島と申すに諸羽大の神を祀り社と云ふ云々右の可  
 児沙の堂の跡の石は頗る六百七十石是が八丁橋の馬場  
 奴家屋敷此の法と云ふに日蓮宗の寺なりと云くも  
 右に安徳が遺跡の下名物燻草たは志安を被たぬ者系  
 入すは乃て又條橋と出たり解之傳所村 市上流の河  
 系の町人ば知老ねれ上の上は天智天皇の御所也・日  
 吾侍系を有る系一り條坂也一に新島場見たりと  
 子ねれとねれとねれと下り坂にひるはり（略）是が河  
 田に（略）粟田にさる粟田園白道と云は侍  
 下之石の心に針の尖る是のまのこまの命・ゆき雪の命・さ  
 くら雪の命・うまゆの命・まの命は又神と勅信せしとい  
 是が要に約しと云はる・右にさる也楊枝とて名物あり  
 河内屋敷と云ふの折を削りといふ方にいふと歡見也  
 向ふ家の法に將軍塚あり是の根武天皇今の跡と云  
 ぬふ町人敢と傳り遣甲と着せ法寺のくま埋りぬと天  
 笑ひありといふ動もるとに天智の社を誓ひぬとい  
 上系といふに右の南條と云ふ寺院ありといふは三百  
 六石四丁傳は大師の他三申の社元三丈師堂を白川が  
 南の方向に知慈院と云ふ法ありと知慈院の傳古と  
 其が寺とも同し名不考と云ふつが承平のの寺といふ

させし町に條の橋が幾川の流あり・東に法橋も同し  
 橋架ちに河内秀次の塔あり橋が二條河成延十丁橋  
 右の橋村河系下加茂に河系と云ふ條の橋架法あり河  
 世大佛今慈覺法橋と橋ありと云ふ大橋と小橋とあり  
 旗人の首を切りは通り河成川と三條ありと云ふ又條の  
 橋の寺とも河成を三神社と云ふ河成跡ありといふ也

三條大元



三條  
河成

なごり

社

京都名所畧業内巡覽

伏見 南無堂の北の三條大橋... 六角堂 南無堂の北の三條大橋... 今文 南無堂の北の三條大橋... 紅雲山 南無堂の北の三條大橋... 手習の神 南無堂の北の三條大橋... 眼草 南無堂の北の三條大橋... 御深殿 南無堂の北の三條大橋... 松葉 南無堂の北の三條大橋... 三日月 南無堂の北の三條大橋...

伏見 南無堂の北の三條大橋... 六角堂 南無堂の北の三條大橋... 今文 南無堂の北の三條大橋... 紅雲山 南無堂の北の三條大橋... 手習の神 南無堂の北の三條大橋... 眼草 南無堂の北の三條大橋... 御深殿 南無堂の北の三條大橋... 松葉 南無堂の北の三條大橋... 三日月 南無堂の北の三條大橋...

二宮流 （中略） 二宮子 徳生流  
 芝宮 （中略） 大津流 （中略）  
 七日 （中略） 貴船の神 （中略） 鞍馬 （中略）  
 大坂 （中略） 安住天神 （中略） 天満  
 天神 （中略） 菅原市 （中略） 住持社  
 池 （中略） 住持 （中略） 今更  
 戒 （中略） 天保 （中略）  
 巡 （中略） 巡 （中略）

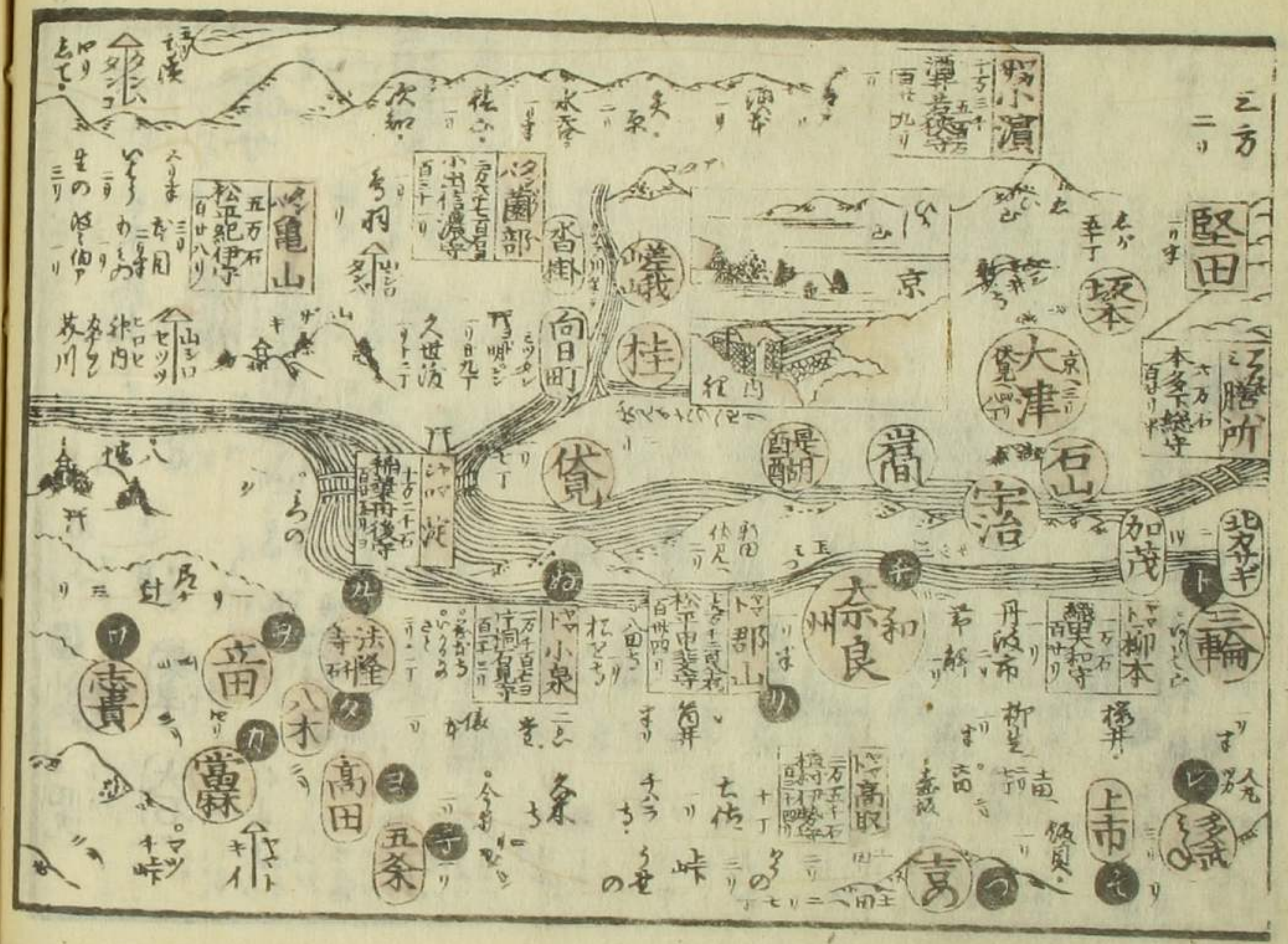
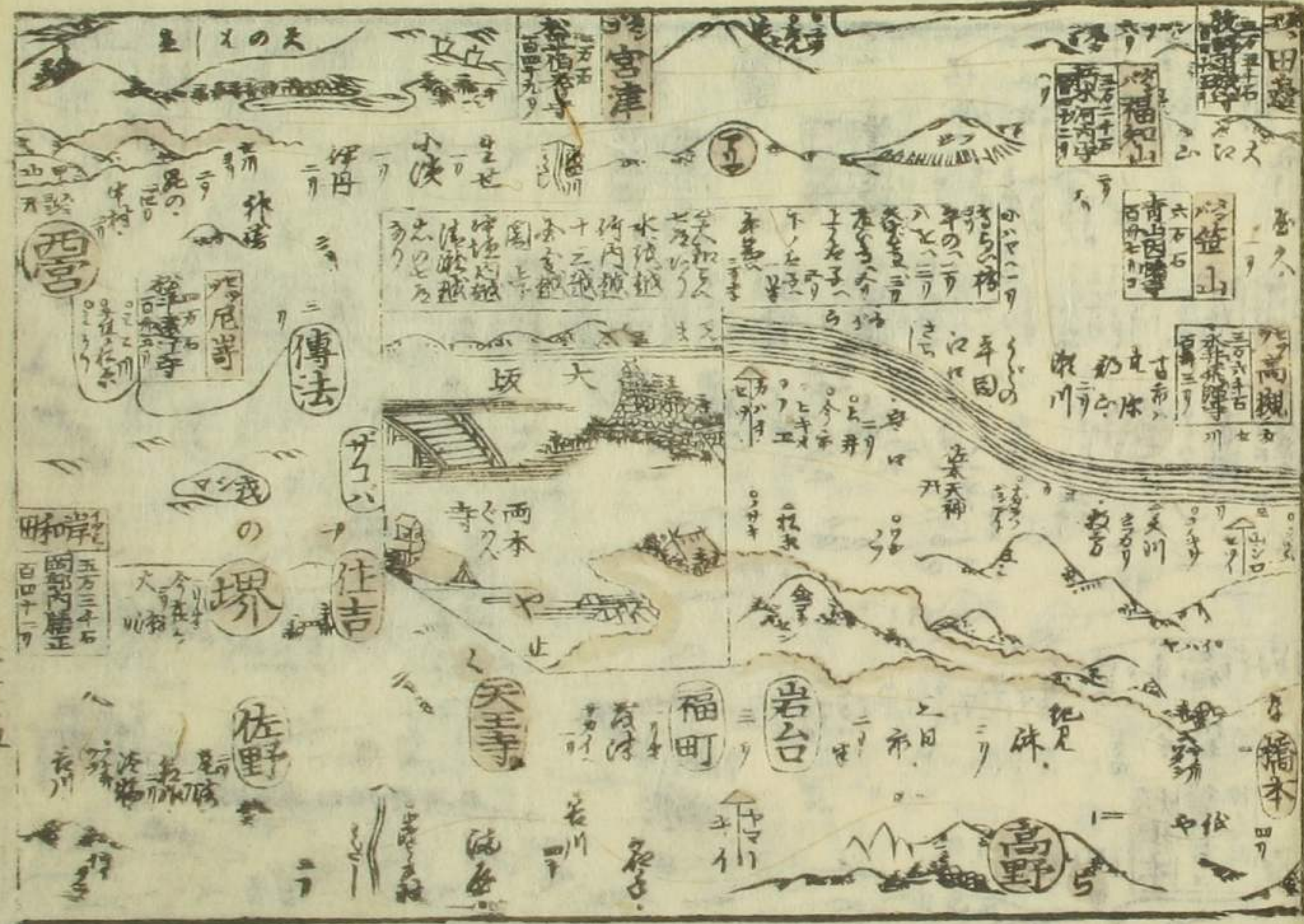
尾及宮より伊勢系と始め大和光り  
 紀及野心和舟の浦小舟と其高く  
 いちけの平流湖近道里教順と書し  
 泉及湖と名大坂まで海流と記し  
 肥前長崎の解金山海津と浦く  
 出しかより書しこれ高く和路の里  
 と書してし水境法塔と領主の法名  
 水知り高知寺の里程を流し古戰場  
 神社佛園山川々里名所古跡等悉く  
 絵圖ふりてく道中一流ハ流中  
 あり

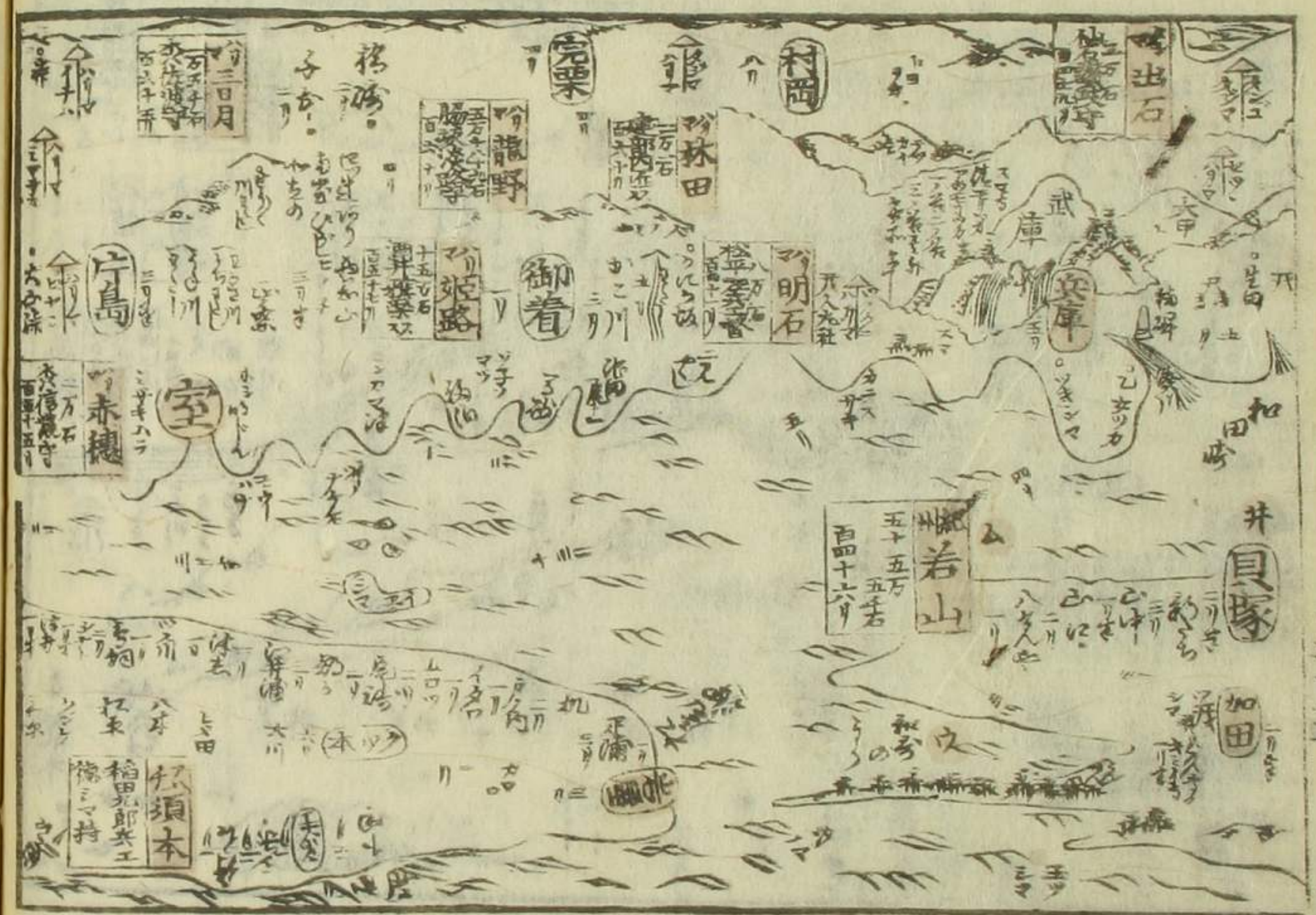
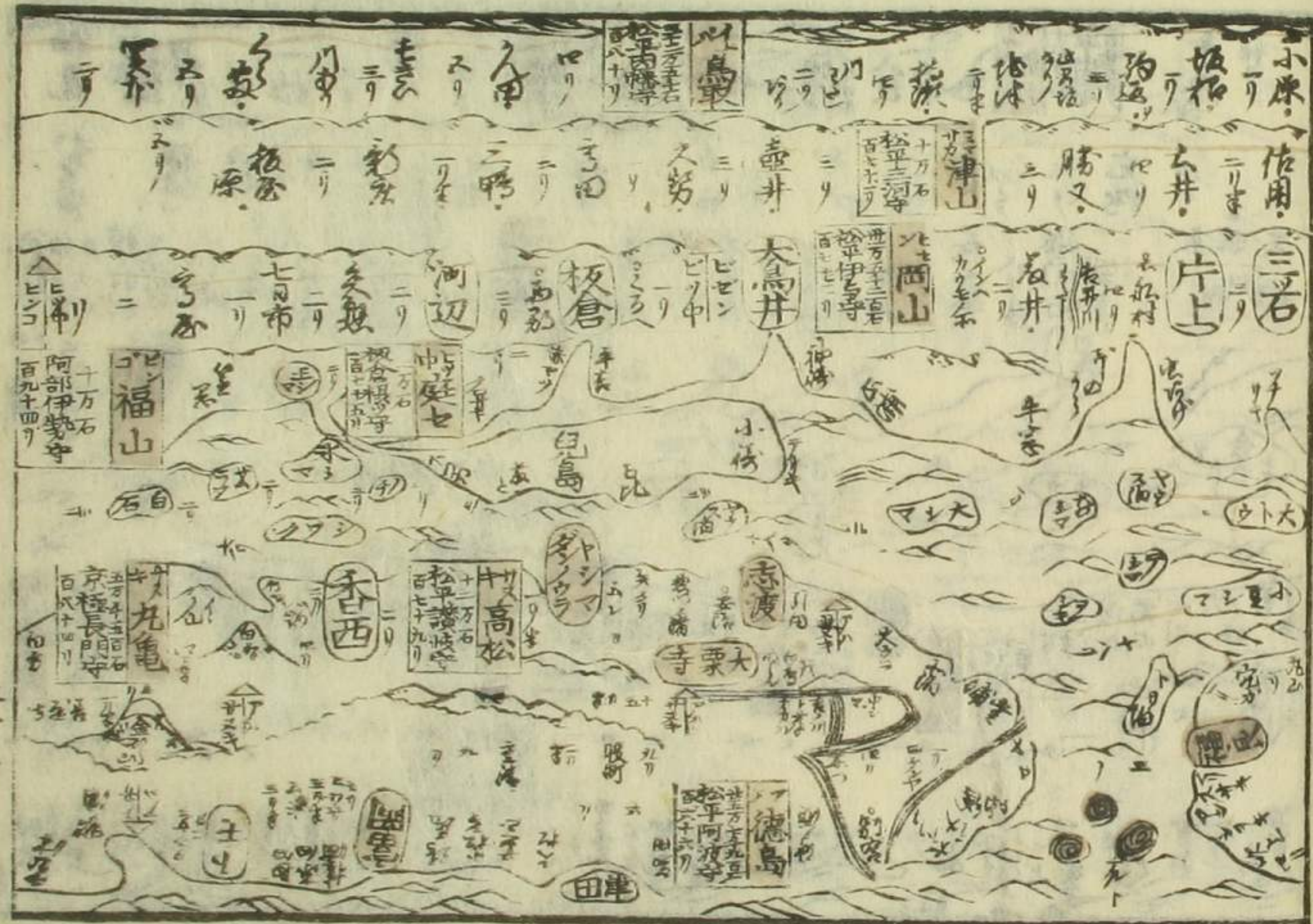
弘化丁未年  
 七月下院  
 奎文房主述

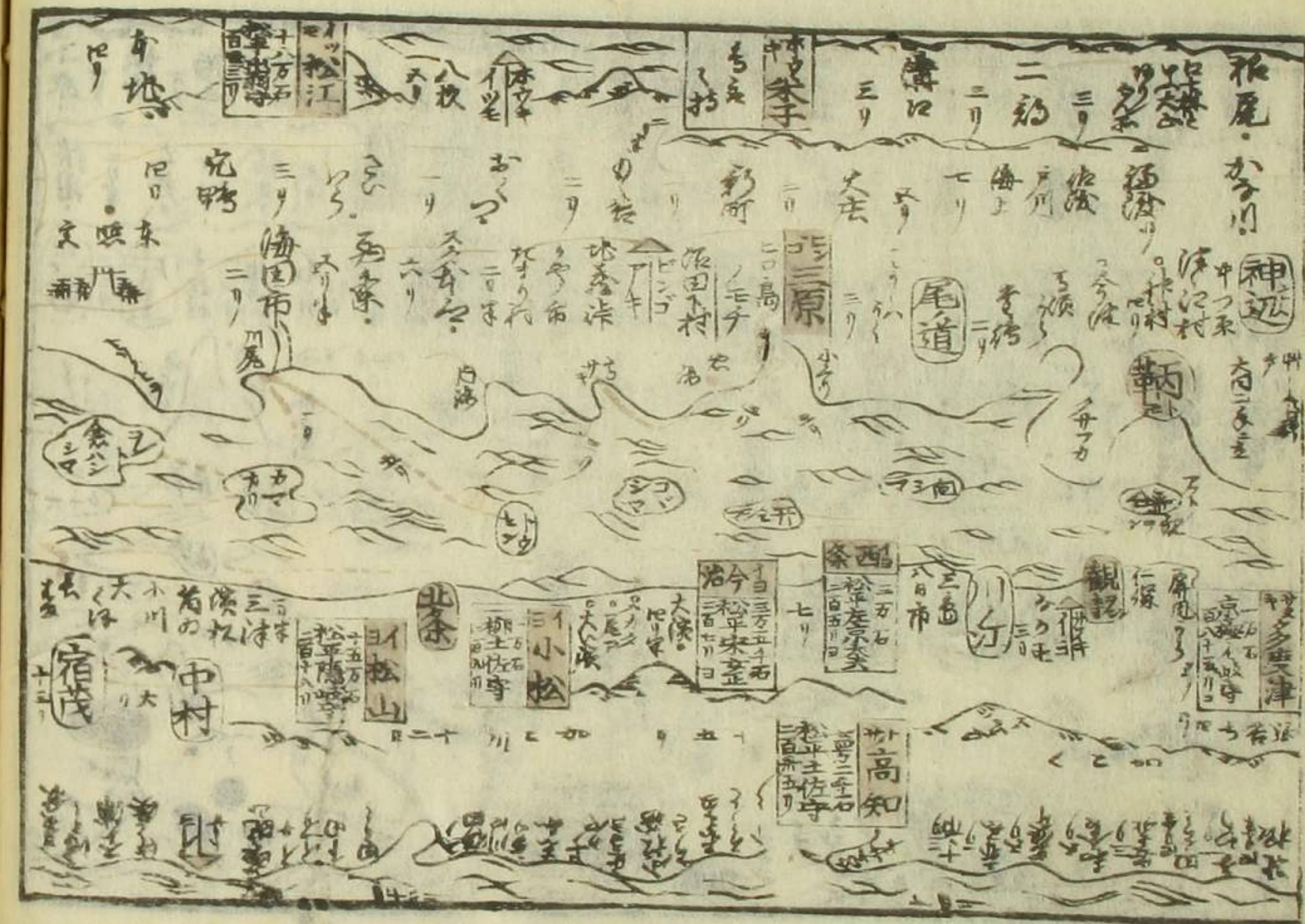
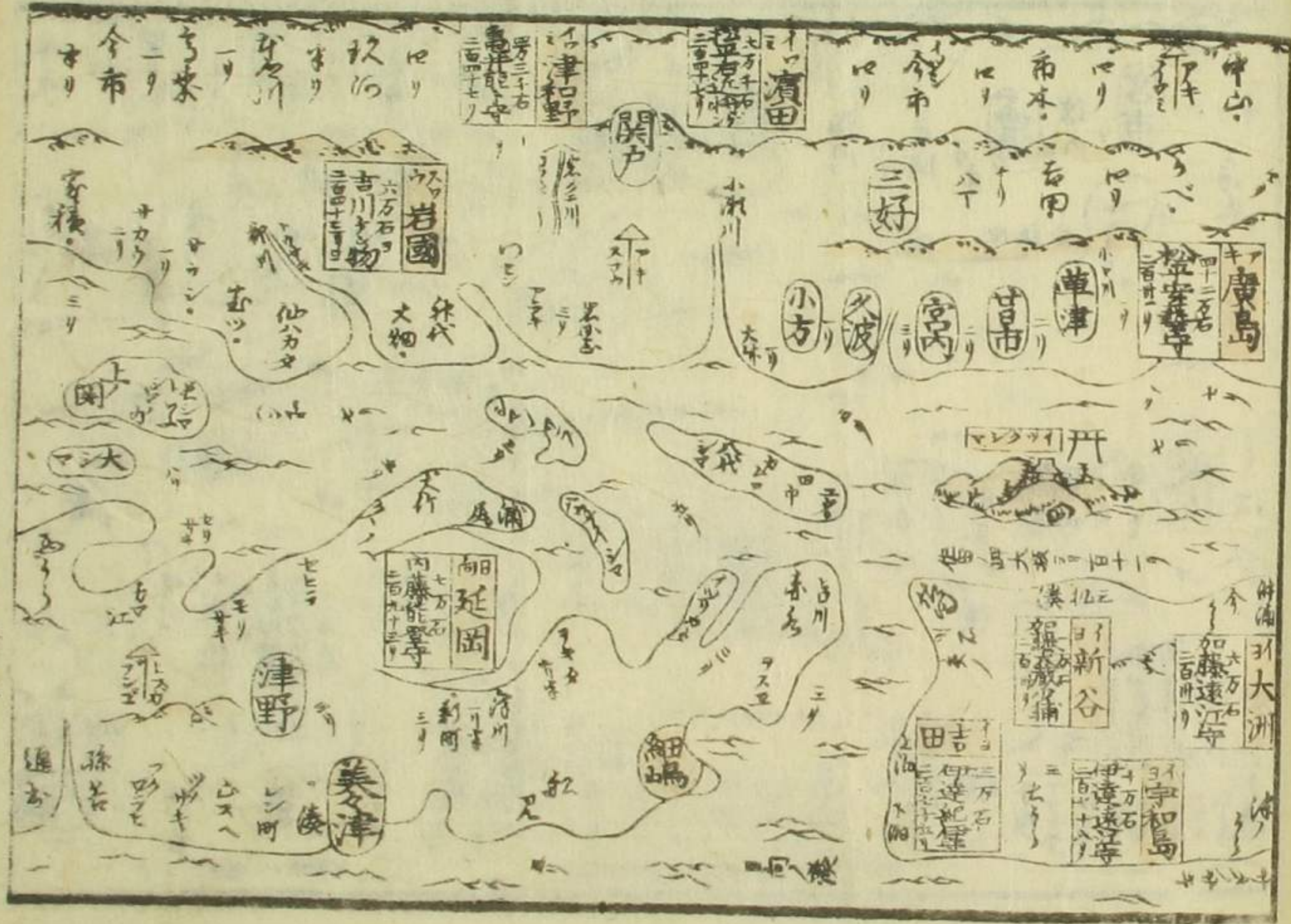
Handwritten map on the left page of an open book. The map is densely packed with Japanese characters, including place names and numerical values. Key locations include 海山湖 (Sea Mountain Lake) at the top left, 正田 (Masuda) and 鳥木 (Torikumi) in the upper middle, and 高宮 (Takamiya) and 関 (Sekai) in the center. The bottom section contains names like 草津 (Kusatsu) and 大石 (Oishi). The map uses simple lines to represent terrain and boundaries.

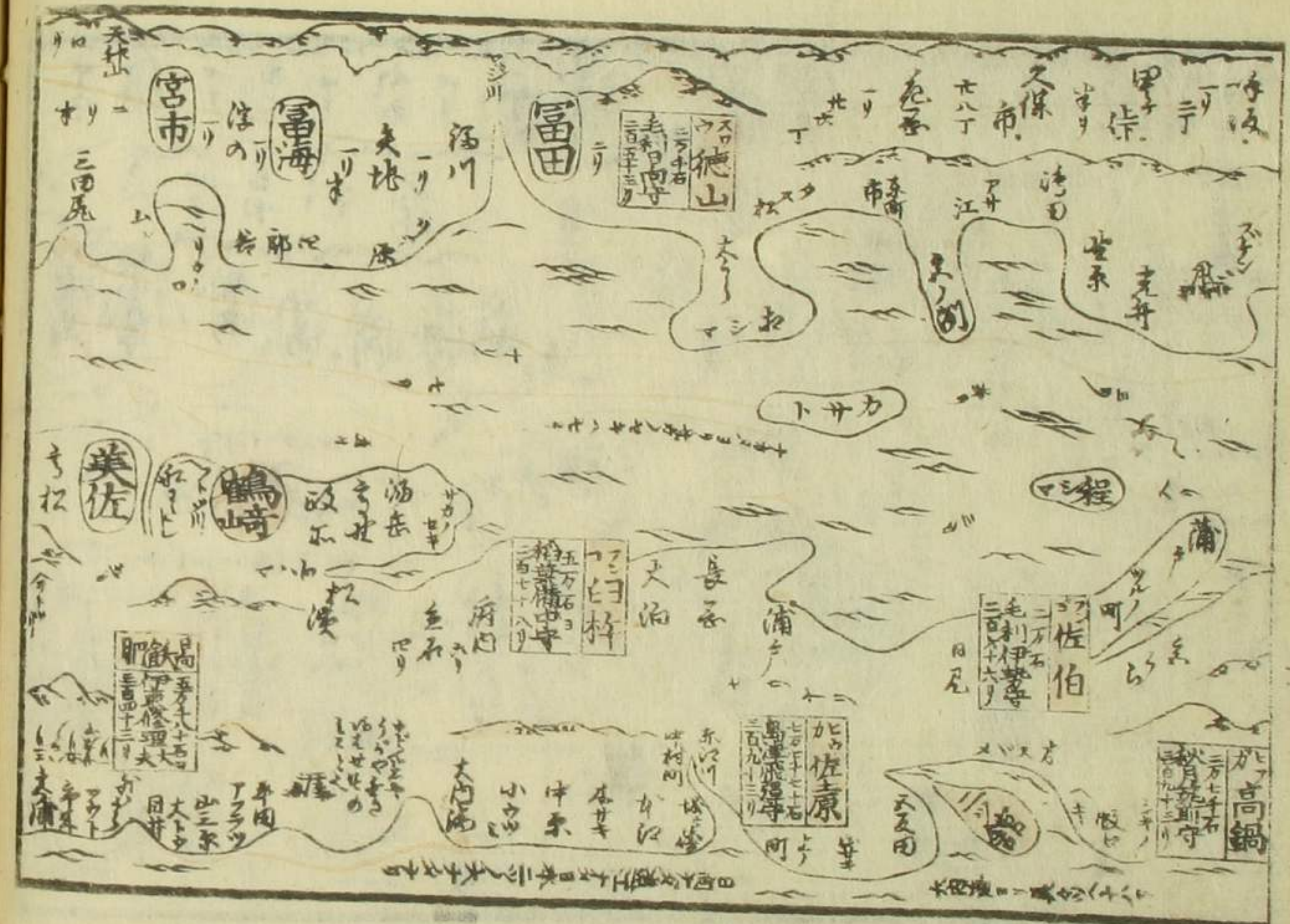
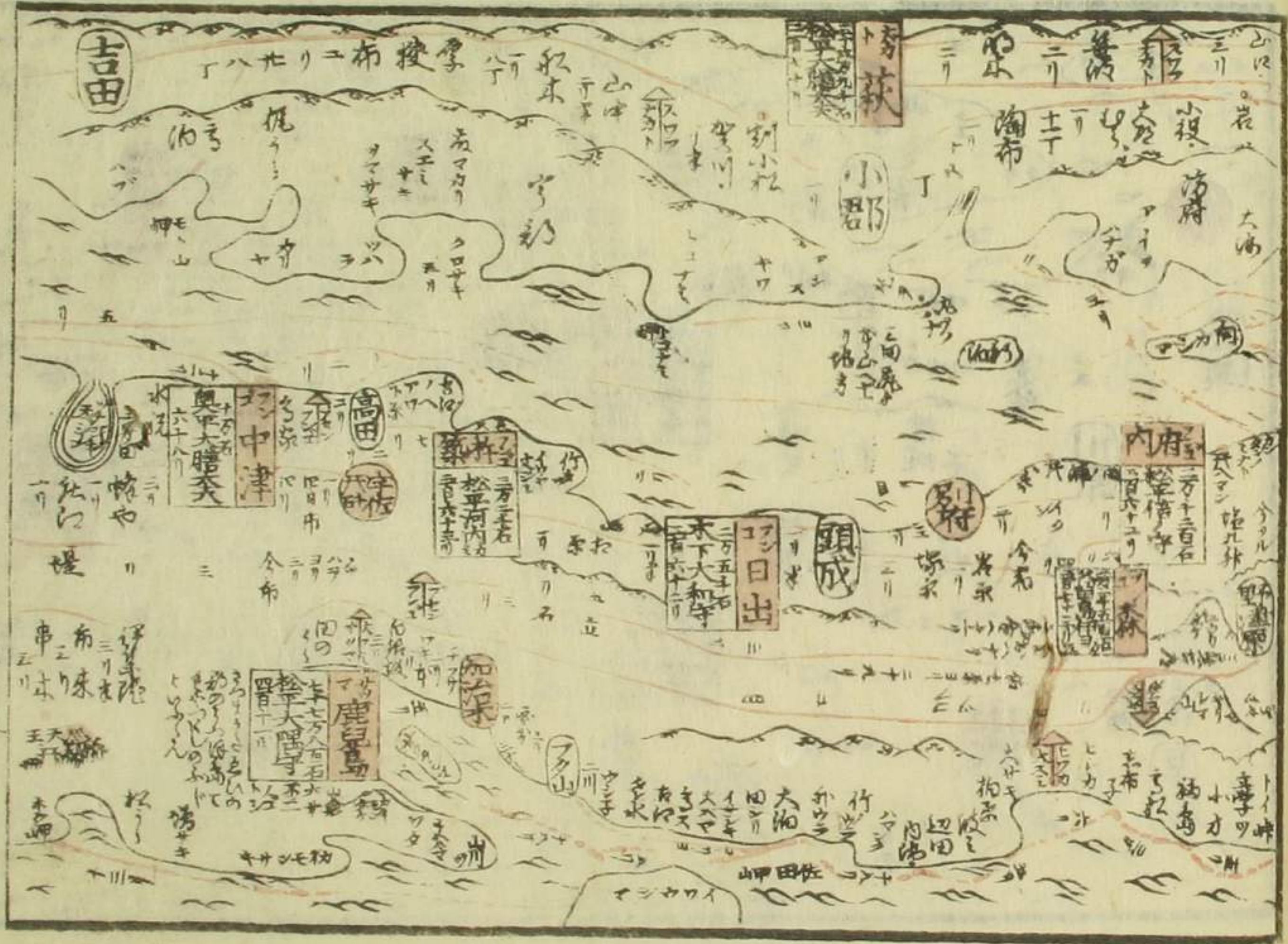
Handwritten map on the right page of an open book. This map is more detailed, featuring a central circular area labeled '宮' (Miyu) and '内宮' (Inamiya). It includes numerous place names such as 湯川 (Yuzawa), 半原 (Hanyara), 新保 (Shinbo), 今庄 (Imajima), 関原 (Sekigahara), 伊保 (Ibo), 赤坂 (Akasaka), and 田原 (Tawara). Numerical values are scattered throughout, likely indicating distances or administrative divisions. The map uses various symbols and lines to delineate regions and features.

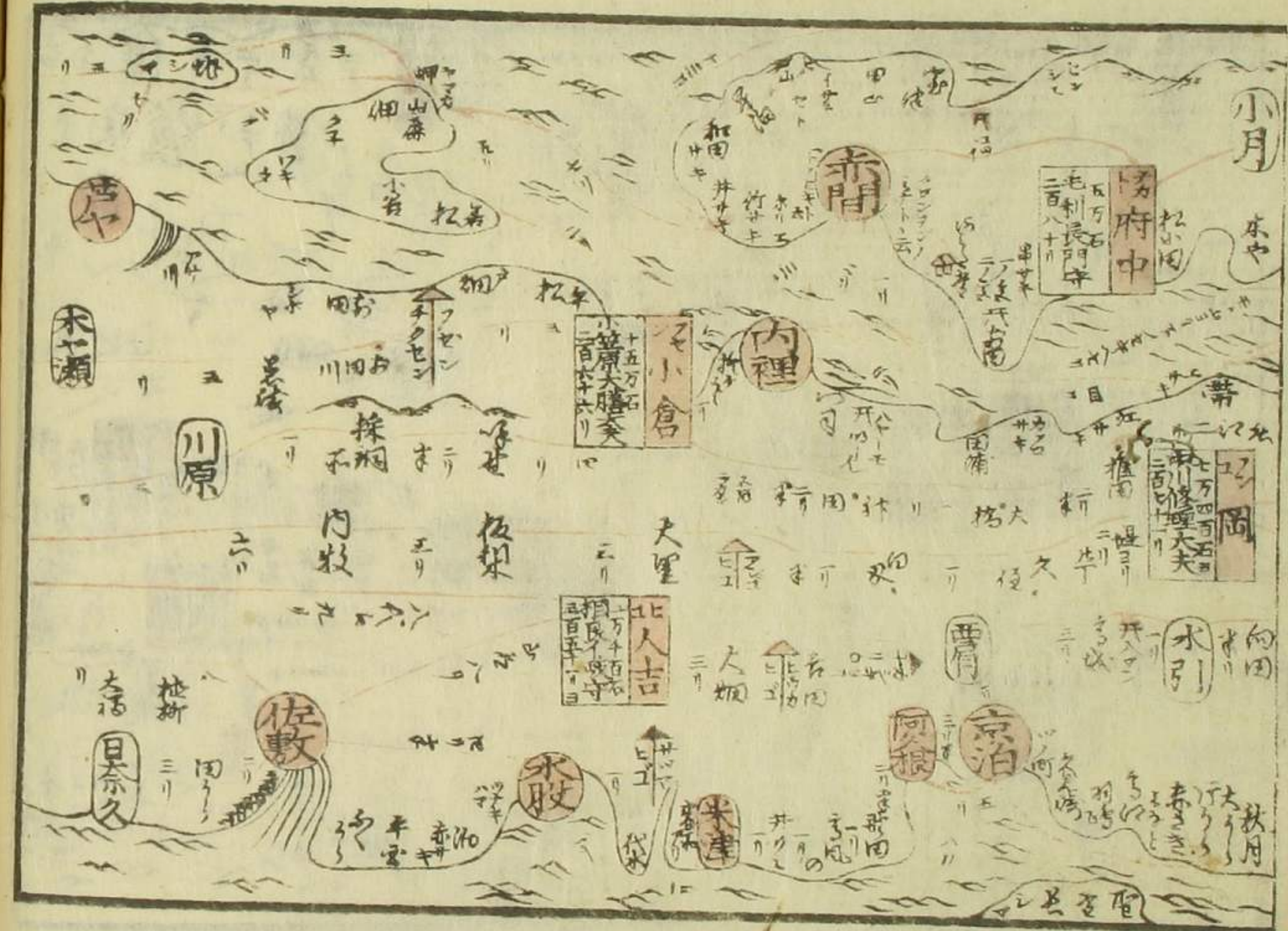
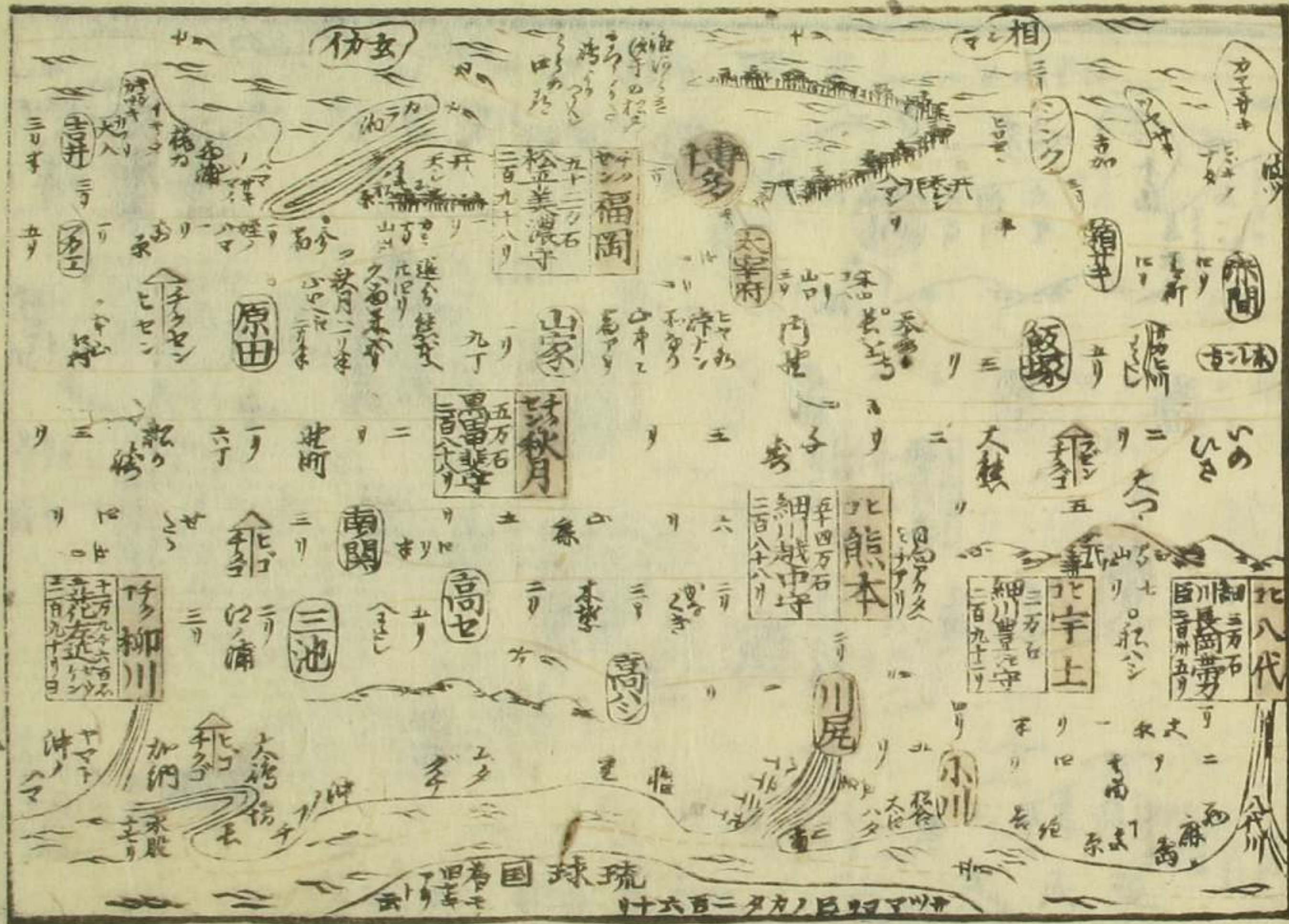


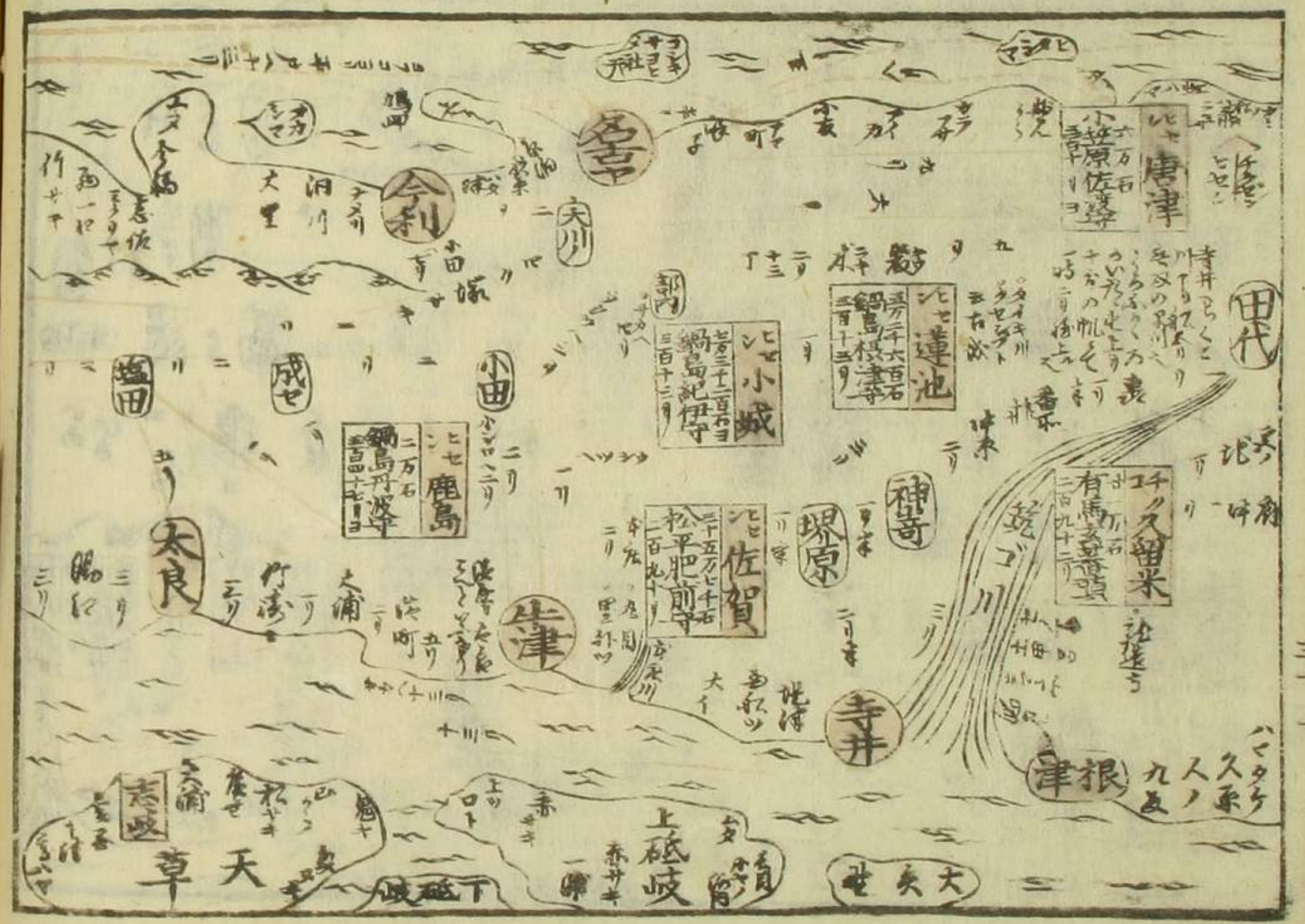
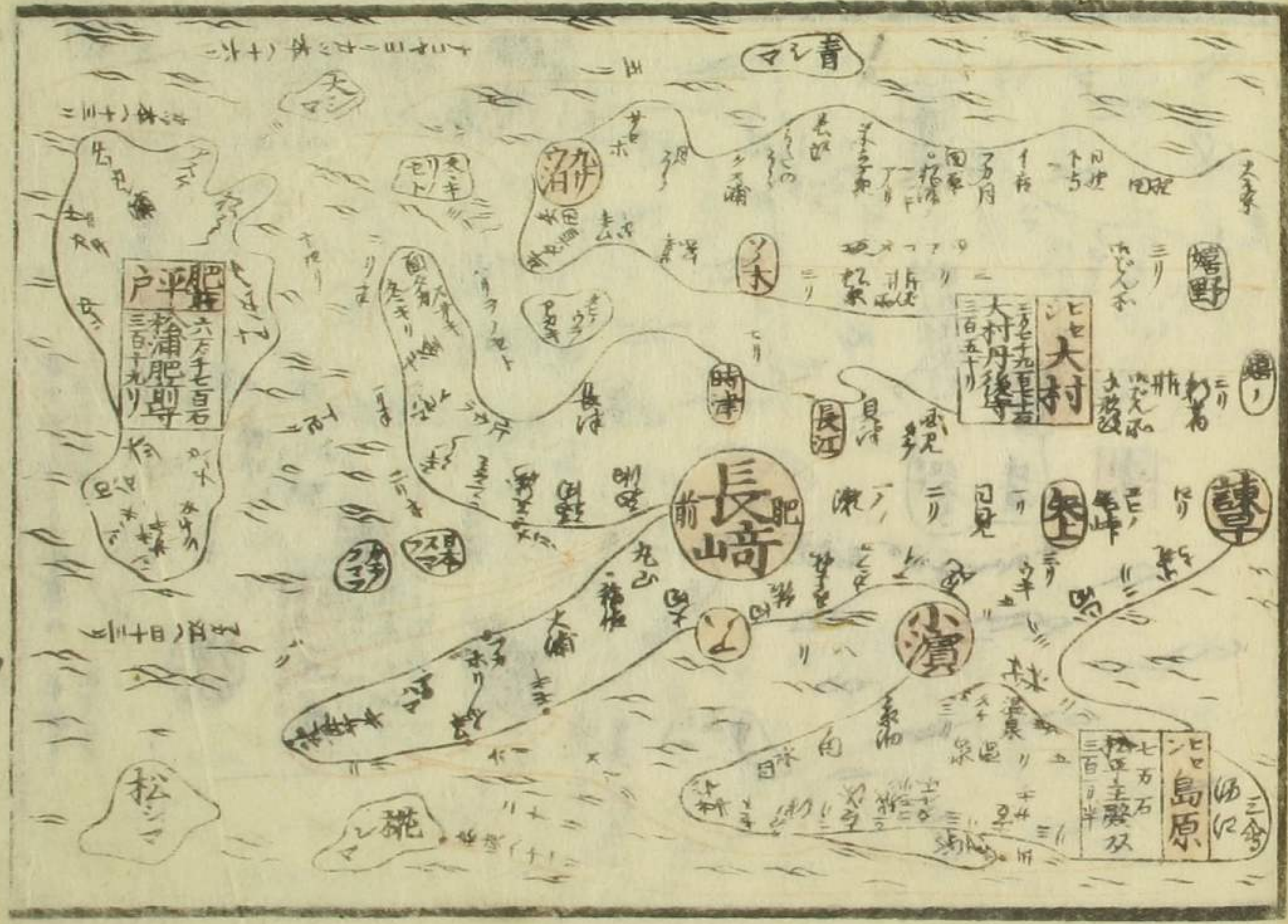


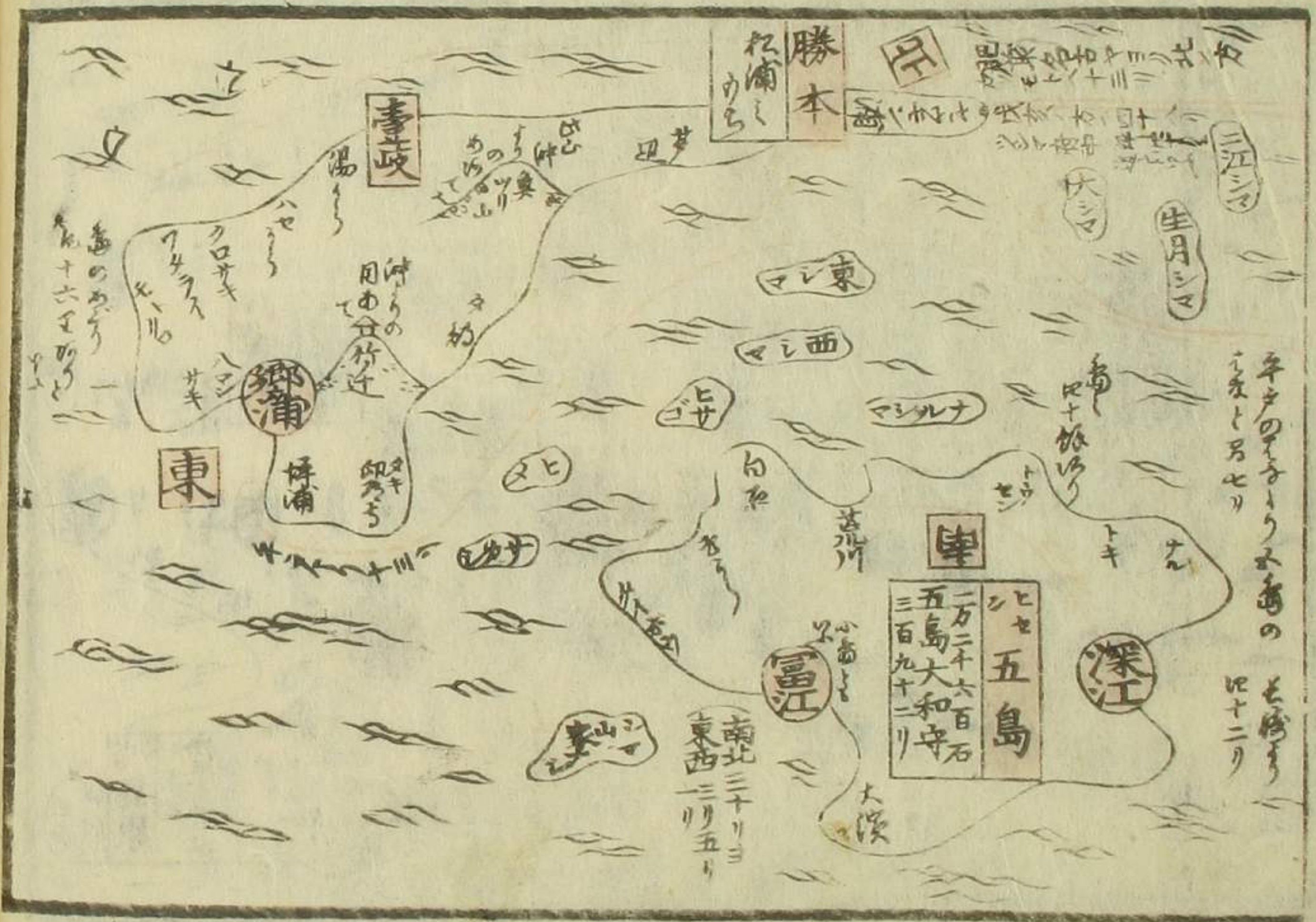






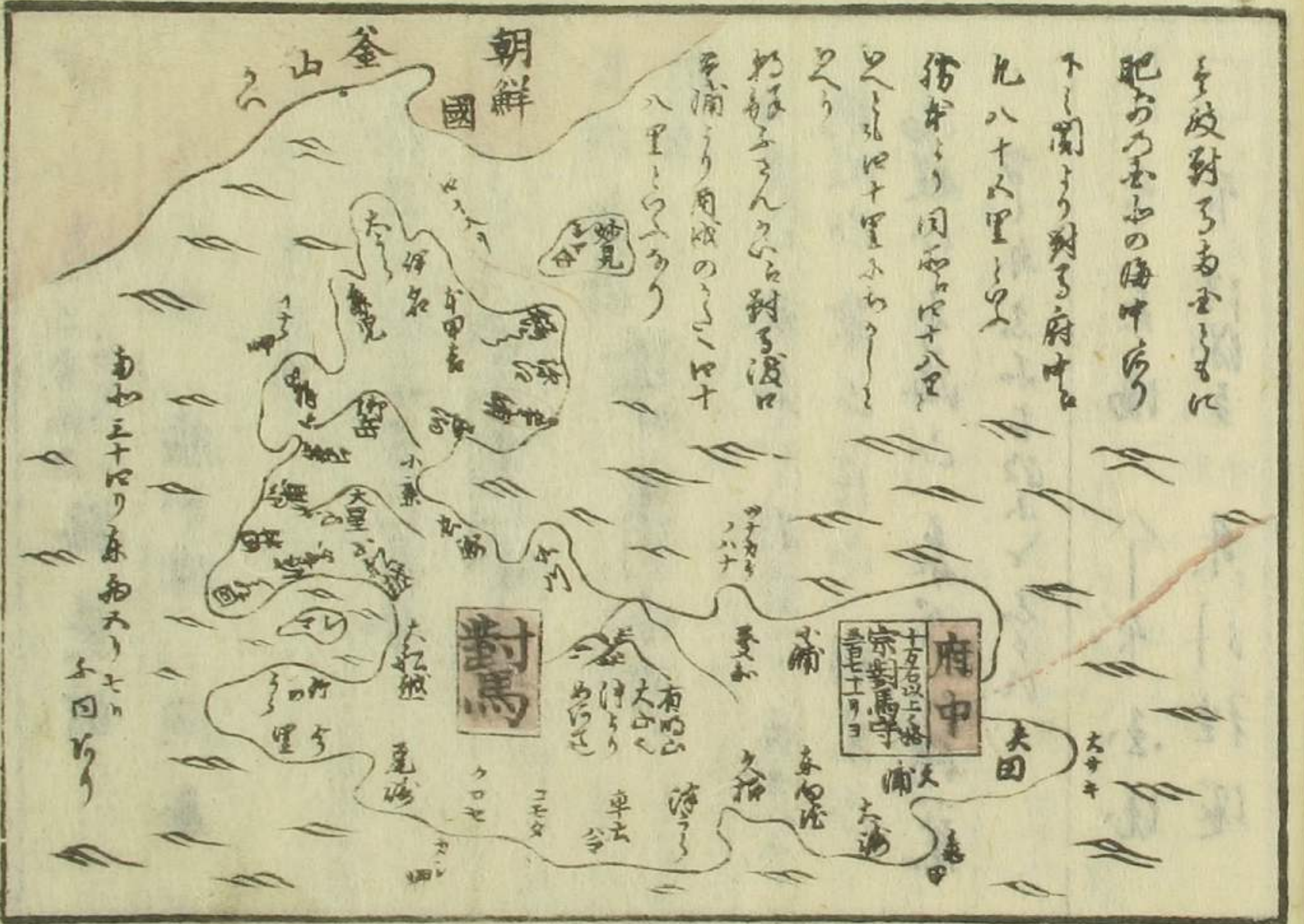






平戸の島より大島の  
長崎まで  
七十里

南北三千里  
東西二千里



を渡對する島を  
肥前の島の中  
下ノ関より對する府中  
九十八里  
傍より同島の十八里  
又ノ島の十里  
又ノ島の十里  
又ノ島の十里

島は五十里あり大島あり  
小島あり

申仙道 本宮跡 結災附

一 浄本陣 一 脇本陣 一 同屋

一 上下里敷付

上 嘉茶津温泉案内墨舎

同 伊香保温泉案内墨舎

出羽 奥羽 道中案内墨舎

越後

日光山 榛名山 妙義山 吾妻山

筑波山 紫金山 月山 羽黒山

湯殿山 高海山 象潟 松崎一光

古く外名亦古跡多し

□ 平 立場 一 平 玉塚

□ 平 法政寺 朱引往還

武日	板橋	兼主	廿	百十一	又
務	二	兼主	廿	七十二	又
			人	二十六	又

友の方所成二板橋見寄格と渡たたぬ川下あり河原  
 町所を云々の中丁奥新の寺奥市を隔ててあり  
 室所今川橋渡田丁を云々右に筋違橋あり云々  
 上野子宿あり是是近日板橋十二丁高平格あり  
 板橋街あり坂上あり也一海又丁目に神田の神宮寺  
 一と礼佛多九月十六日友に聖堂あり林泉寺  
 秋奠二月八日中の丁乃日本六丁と東川若退寺  
 約迄王子岩瀬日光御殿及之竹町七八丁あり坂を渡り  
 下江向の板橋は右の約迄の末より富士橋流又六澤井の物  
 向板橋本登多一竹あり是に竹あり也 巢鴨 友に地  
 名は是江戸にあり六澤外之見の板橋をたたぬ川  
 友にたたり懸るは云々谷赤坂あり及之友に一  
 橋あり平尾をたたり是板橋は云々之に板橋をたたり

武日	板橋	兼主	廿	百十一	又
務	二	兼主	廿	七十二	又
			人	二十六	又

所を渡り板橋田新の寺奥新の寺奥市を隔ててあり  
 室所今川橋渡田丁を云々右に筋違橋あり云々  
 上野子宿あり是是近日板橋十二丁高平格あり  
 板橋街あり坂上あり也一海又丁目に神田の神宮寺  
 一と礼佛多九月十六日友に聖堂あり林泉寺  
 秋奠二月八日中の丁乃日本六丁と東川若退寺  
 約迄王子岩瀬日光御殿及之竹町七八丁あり坂を渡り  
 下江向の板橋は右の約迄の末より富士橋流又六澤井の物  
 向板橋本登多一竹あり是に竹あり也 巢鴨 友に地  
 名は是江戸にあり六澤外之見の板橋をたたぬ川  
 友にたたり懸るは云々谷赤坂あり及之友に一  
 橋あり平尾をたたり是板橋は云々之に板橋をたたり





一ツ河原より坂上迄の法は水と池がてつぎの沼陽とを系ひ其の  
 らぬ極東より出づ戸田川新築して一ツ河原沼村  
 までせりそそ新築せしめ出入り人並調を子位にせり  
 に不後村如尾手に子安より入らるる沼村  
 野人佐渡に流し置けり附以して種産の事  
 あり新築せしめ今日由新産の時産  
 のくせに産者より一ツ河原沼村  
 河原沼村沼田沼池沼中沼六丁沼尾沼  
 名物中と東辻村沼小坂沼沼尾沼沼村沼  
 沼尾沼沼尾沼沼尾沼沼尾沼沼尾沼  
 沼の事と法は水と池と

武浦沼  
 大更沼  
 沼尾沼  
 沼田沼  
 沼池沼  
 沼中沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼

松井本十八丁五社領三百石久米町の事なり

武大宮  
 沼尾沼  
 沼田沼  
 沼池沼  
 沼中沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼

武大宮  
 沼尾沼  
 沼田沼  
 沼池沼  
 沼中沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼

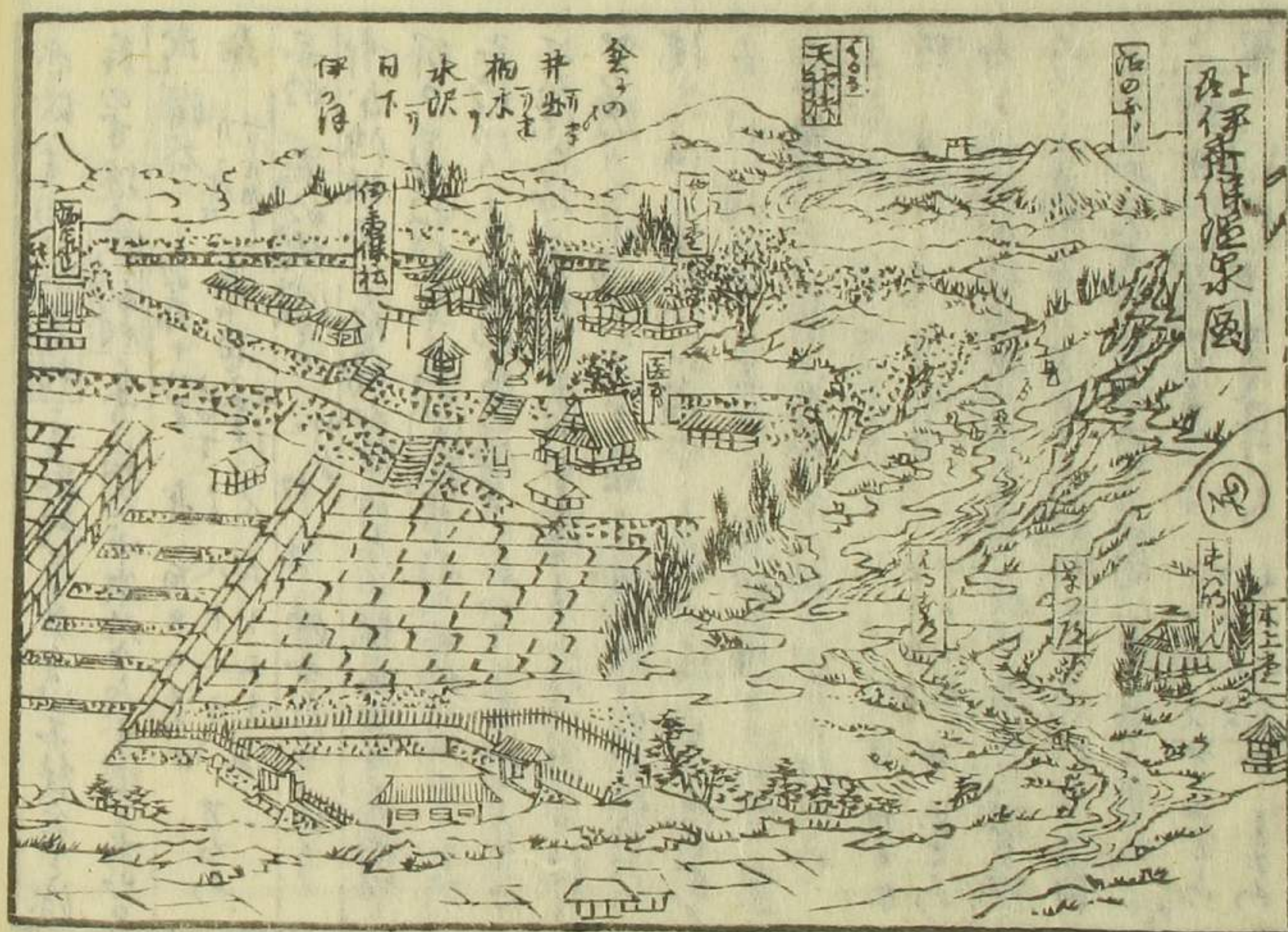
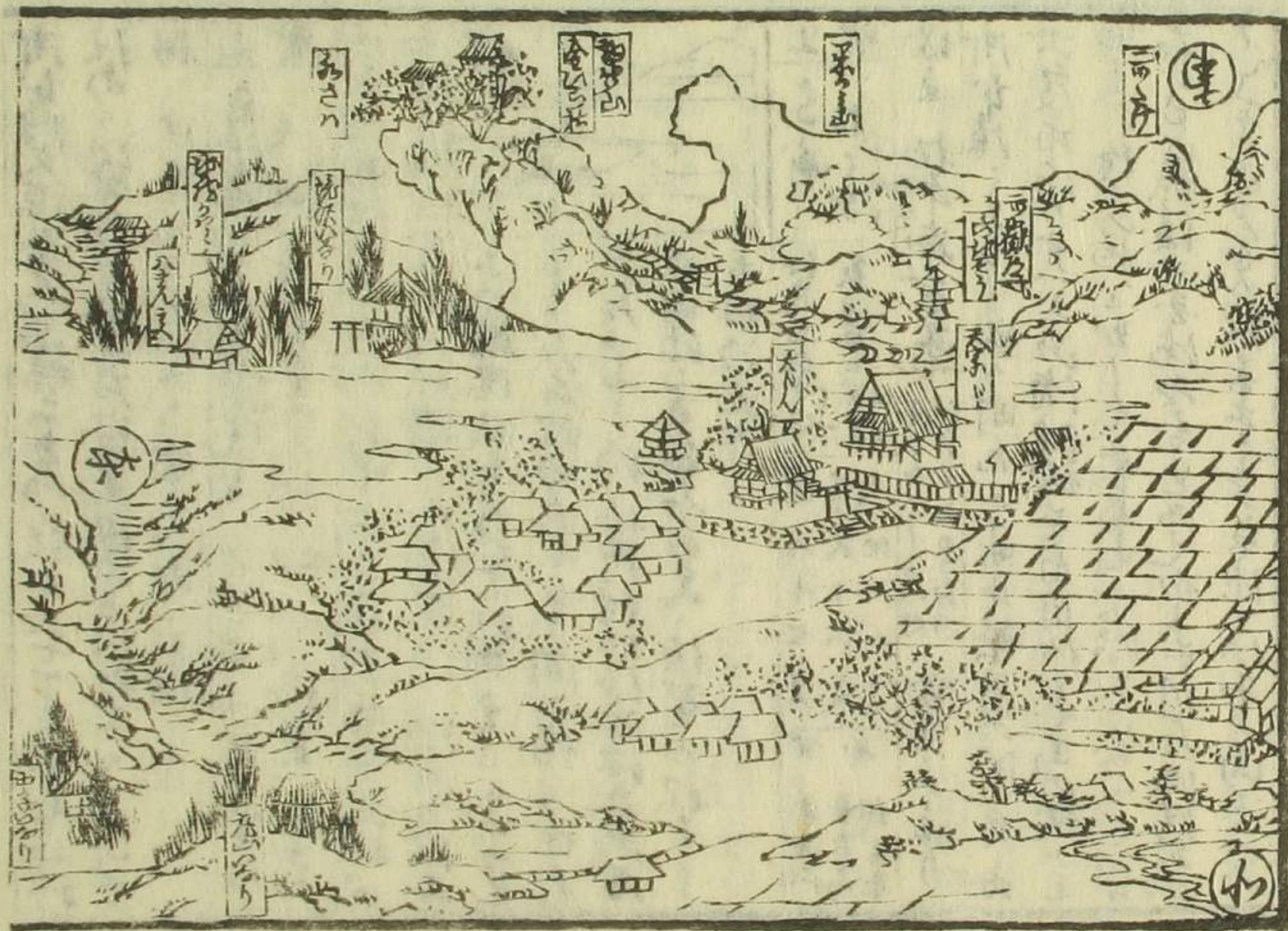
武大宮  
 沼尾沼  
 沼田沼  
 沼池沼  
 沼中沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼

武大宮  
 沼尾沼  
 沼田沼  
 沼池沼  
 沼中沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼

武大宮  
 沼尾沼  
 沼田沼  
 沼池沼  
 沼中沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼

武大宮  
 沼尾沼  
 沼田沼  
 沼池沼  
 沼中沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼  
 沼尾沼





河津久保より小林まで中六丁并金輪の村  
社あり此地の生主神と右に日光御方と云ふ  
御入申あり河津から渡り

上 倉賀野 江戸北四丁 八丁 八丁 八丁  
東 八丁 八丁 八丁 八丁  
西 八丁 八丁 八丁 八丁

河津河津使河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先



上 高橋 江戸北六丁 八丁 八丁 八丁  
板倉 江戸北七丁 八丁 八丁 八丁  
松平 江戸北八丁 八丁 八丁 八丁

河津河津使河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先

上 板倉 江戸北八丁 八丁 八丁 八丁  
板倉 江戸北九丁 八丁 八丁 八丁  
板倉 江戸北十丁 八丁 八丁 八丁

河津河津使河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先

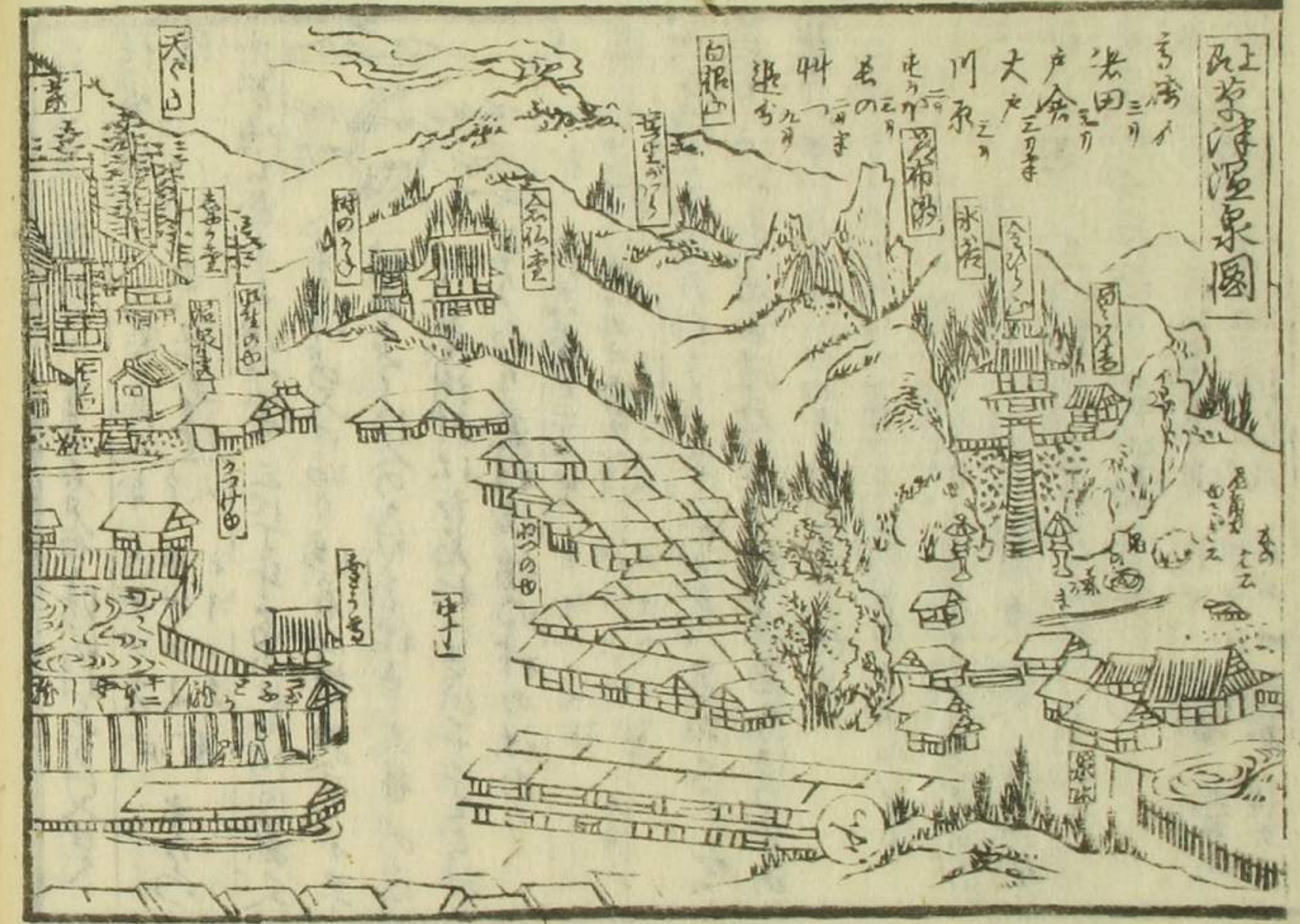
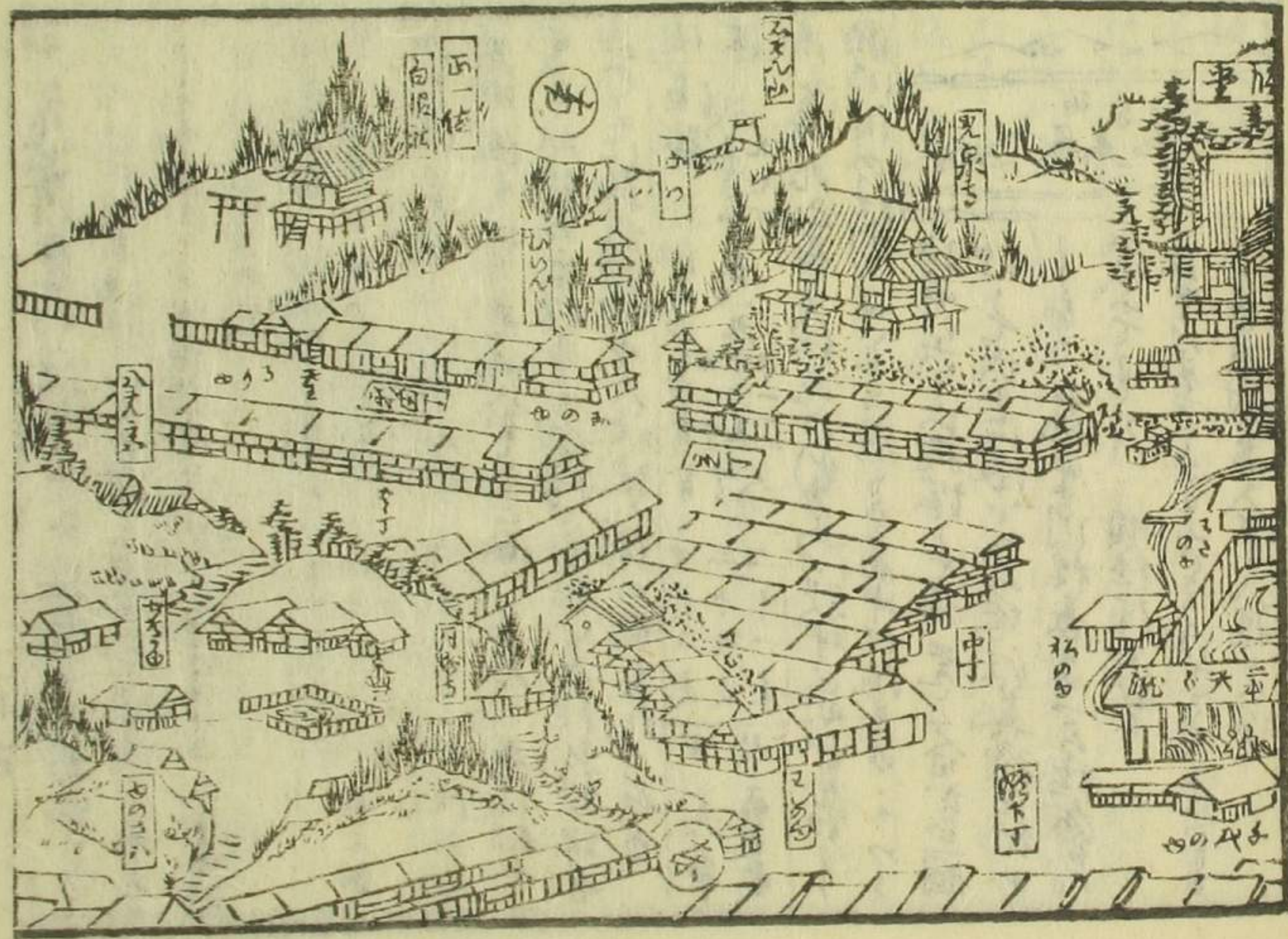
上 安中 江戸北十丁 八丁 八丁 八丁  
安中 江戸北十一丁 八丁 八丁 八丁  
安中 江戸北十二丁 八丁 八丁 八丁

河津河津使河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先



河津河津使河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先  
所を渡り河津八丁の秋中六丁日先





河津村の北の秋中二丁半餘金あり着の  
 東の出口に茶屋あり着中下海多し流流  
 あり右のうに越後及びかきかき東名水之和国味  
 坂のしるの者

佐 岩村田 江戸四十五丁 七十八文  
 佐 徳多村 江戸九十二丁 七十九文  
 一丁 八十八文

河津流を流るは八丁と淋とたて平橋村中  
 高き如にお生れむ下橋村金村の村駒取坂長  
 心の上にお取の村大社地之駒の形有たる石

佐 徳多村 江戸九十二丁 七十九文  
 佐 八丁 江戸九十二丁 七十九文  
 佐 八丁 江戸九十二丁 七十九文

河津流の北ありさきさき流も着中に流るは下り  
 以水に六十六種海を流るは下り  
 終り六十六種海を流るは下り  
 一あり流るは下り長井村長井村  
 後して日く 順徳流河津  
 流るは下り長井村長井村  
 今世流るは下り長井村長井村



佐 八幡 江戸四十五丁 七十九文  
 佐 聖月 江戸四十五丁 七十九文  
 佐 八丁 江戸九十二丁 七十九文

河津流の北ありさきさき流も着中に流るは下り  
 以水に六十六種海を流るは下り  
 終り六十六種海を流るは下り  
 一あり流るは下り長井村長井村  
 後して日く 順徳流河津  
 流るは下り長井村長井村  
 今世流るは下り長井村長井村

佐 聖月 江戸四十五丁 七十九文  
 佐 八丁 江戸九十二丁 七十九文

河津流の北ありさきさき流も着中に流るは下り  
 以水に六十六種海を流るは下り  
 終り六十六種海を流るは下り  
 一あり流るは下り長井村長井村  
 後して日く 順徳流河津  
 流るは下り長井村長井村  
 今世流るは下り長井村長井村

河津流の北ありさきさき流も着中に流るは下り  
 以水に六十六種海を流るは下り  
 終り六十六種海を流るは下り  
 一あり流るは下り長井村長井村  
 後して日く 順徳流河津  
 流るは下り長井村長井村  
 今世流るは下り長井村長井村

佐 聖月 江戸四十五丁 七十九文  
 佐 八丁 江戸九十二丁 七十九文

河津海老居傳方の伝説あり為秋老眼まをよふ石有  
河津海老居傳方石別坂石蔵坂味いさ全盛

伝長久保 河津早稲 百一丈 百一丈  
伝 河津早稲 六十丈 六十丈  
伝 河津早稲 六十丈 六十丈

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
下河田 三ヶ村 入河口あり

伝 河田 河津早稲 百一丈 百一丈  
伝 河田 河津早稲 六十丈 六十丈  
伝 河田 河津早稲 六十丈 六十丈

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり



河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり

河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり  
河津海老居傳方 河津中三平坂及若川あり



沢川為舟本小舟仲る流あり故に流るると是春の村に子(村)菅光とあり

佐 小川 江戸六十五丁 舟 百七十八丈 日 菅原の  
法 小川 江戸七十丁 人 六十八丈 舟 菅原の

新井海小舟長末の秋中に舟の秋を主たり舟の網をかりとて橋をい流樹の楊枝とて日出陸村橋は村橋橋は橋と東松本飯納高倉殿とて是より舟と云登の流は流あり一舟平村高村子村との本村

佐 小川 江戸六十二丁 舟 百十丈 日 菅原の  
法 小川 江戸七十丁 人 六十三丈 舟 菅原の

新井海子村在流。秋中舟三田河長とて是に流最河の故に小川といふ橋あり流あり舟あり舟を舟押込舟といふとて舟橋を舟村。舟の坂味舟は佐竹の村の社。舟村橋網の舟とあり舟とあり

佐 小川 江戸六十二丁 舟 百十六丈 日 菅原の  
法 小川 江戸七十丁 人 六十六丈 舟 菅原の

新井海舟子九郎舟の秋中舟舟七丁舟舟の舟ありは高心の舟といふ舟竹橋網の舟。是より川の流は舟の舟と流る。舟橋味。舟とあり舟といふは知舟と舟あり舟の舟橋を舟舟に舟と流る。三田河長と流る舟とあり

今、平地同様に味に舟仲ありと云流あり。舟橋味は道の名也。舟と舟といふは舟の名也

佐 舟系 江戸六十五丁 舟 百七十八丈 日 菅原の  
法 舟系 江戸七十丁 人 六十八丈 舟 菅原の



舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系

舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系

舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系 舟系

桑中 大糸川に下流橋を築き荒草林を濶き所園出村  
去き浦敷勸業之橋地共改是之橋為二所つる

佐 福島 江戸 六百八十文 日 孫 老 吏  
佐 福島 二ヶ村 桑中 七十八文 桑中 桑中

河津 河津 桑中 桑中 桑中 桑中  
河津 河津 桑中 桑中 桑中 桑中  
河津 河津 桑中 桑中 桑中 桑中



河津 河津 桑中 桑中 桑中 桑中  
河津 河津 桑中 桑中 桑中 桑中  
河津 河津 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中

桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中  
桑中 桑中 桑中 桑中 桑中 桑中



新井村平方の山左の沢端に陣中本居り下流を  
縁綿山と申しと仰る事一丁半の村御宗川と申す所の  
下流を左の傍より大田流と申す所  
今井村山と申す所は公井は御宗の  
所出する村戸野村長院御宗の  
馬矢村坂より岡山谷と申す所の  
馬矢村坂より大田流を左の傍に  
付て馬矢八丁と申す所の村

佐野尻 江戸七丁半 戸百八丁 官 表居内  
二丁半 系又十八丁 八十九丁 官 又方  
所本津東社を清源社と申す所は下流飯堂と申す所  
飯堂と申す所は上流飯堂と申す所は下流飯堂と申す所  
根村左に約飲と申す所は上流飯堂と申す所は下流飯堂と申す所  
江戸川に約飲と申す所は上流飯堂と申す所は下流飯堂と申す所  
村飯堂と申す所は上流飯堂と申す所は下流飯堂と申す所  
佐二戸野 江戸七丁半 戸百八十七丁 官 表居内  
江戸川に約飲と申す所は上流飯堂と申す所は下流飯堂と申す所  
所本津東社を清源社と申す所は下流飯堂と申す所  
新井村平方の山左の沢端に陣中本居り下流を  
縁綿山と申しと仰る事一丁半の村御宗川と申す所の  
下流を左の傍より大田流と申す所  
今井村山と申す所は公井は御宗の  
所出する村戸野村長院御宗の  
馬矢村坂より岡山谷と申す所の  
馬矢村坂より大田流を左の傍に  
付て馬矢八丁と申す所の村

佐二戸野 江戸七丁半 戸百八十七丁 官 表居内  
江戸川に約飲と申す所は上流飯堂と申す所は下流飯堂と申す所  
所本津東社を清源社と申す所は下流飯堂と申す所  
新井村平方の山左の沢端に陣中本居り下流を  
縁綿山と申しと仰る事一丁半の村御宗川と申す所の  
下流を左の傍より大田流と申す所  
今井村山と申す所は公井は御宗の  
所出する村戸野村長院御宗の  
馬矢村坂より岡山谷と申す所の  
馬矢村坂より大田流を左の傍に  
付て馬矢八丁と申す所の村  
佐二戸野 江戸七丁半 戸百八十七丁 官 表居内  
江戸川に約飲と申す所は上流飯堂と申す所は下流飯堂と申す所  
所本津東社を清源社と申す所は下流飯堂と申す所  
新井村平方の山左の沢端に陣中本居り下流を  
縁綿山と申しと仰る事一丁半の村御宗川と申す所の  
下流を左の傍より大田流と申す所  
今井村山と申す所は公井は御宗の  
所出する村戸野村長院御宗の  
馬矢村坂より岡山谷と申す所の  
馬矢村坂より大田流を左の傍に  
付て馬矢八丁と申す所の村  
佐二戸野 江戸七丁半 戸百八十七丁 官 表居内  
江戸川に約飲と申す所は上流飯堂と申す所は下流飯堂と申す所  
所本津東社を清源社と申す所は下流飯堂と申す所  
新井村平方の山左の沢端に陣中本居り下流を  
縁綿山と申しと仰る事一丁半の村御宗川と申す所の  
下流を左の傍より大田流と申す所  
今井村山と申す所は公井は御宗の  
所出する村戸野村長院御宗の  
馬矢村坂より岡山谷と申す所の  
馬矢村坂より大田流を左の傍に  
付て馬矢八丁と申す所の村

村古徳坂古徳府村上等村坂あり其跡に古徳川  
 入小南本河列を及あり右のうに古徳川あり南本河  
 心あり其下おに本河川あり

英津津川 江戸八十三里 村 百七十五戸 古徳川  
 法大井 江戸八十三里 村 七十八戸 古徳川  
 法大井 江戸八十三里 村 六十二戸 古徳川

南本河 遠く英津川 江戸八十三里 村 百七十五戸  
 南本河 遠く英津川 江戸八十三里 村 七十八戸  
 南本河 遠く英津川 江戸八十三里 村 六十二戸

英大井 江戸八十三里 村 百七十五戸  
 法大井 江戸八十三里 村 七十八戸  
 法大井 江戸八十三里 村 六十二戸

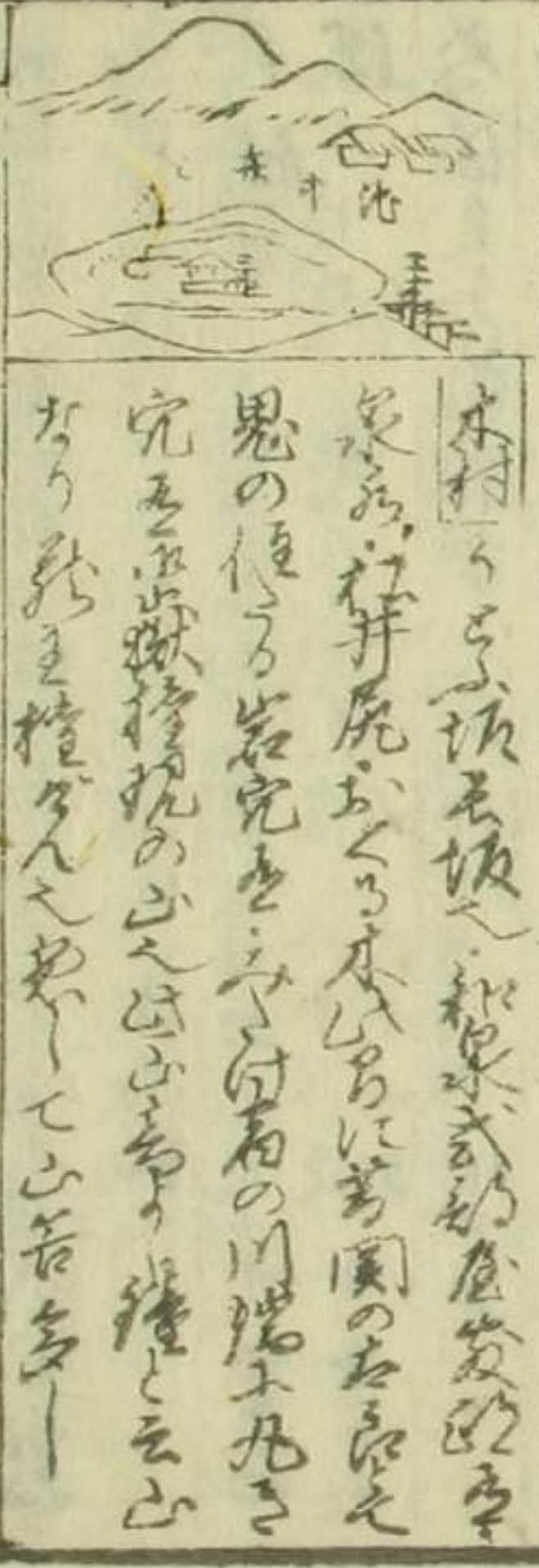
岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里  
 岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里  
 岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里

英大子 江戸八十三里 村 百七十五戸  
 法大子 江戸八十三里 村 七十八戸  
 法大子 江戸八十三里 村 六十二戸

岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里  
 岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里  
 岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里

英大子 江戸八十三里 村 百七十五戸  
 法大子 江戸八十三里 村 七十八戸  
 法大子 江戸八十三里 村 六十二戸

岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里  
 岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里  
 岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里



英大子 江戸八十三里 村 百七十五戸  
 法大子 江戸八十三里 村 七十八戸  
 法大子 江戸八十三里 村 六十二戸

岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里  
 岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里  
 岩村城 松平徳忠 大井 江戸八十三里

ちよふ線ちよふ線米平十二石可思河より一平若  
 痛を是と云ふ繩之鬼の首塚を其園の在るに法皇  
 首塚に於て此の首塚に重く一校百人か力に及  
 くといふ此の首塚に重く一校百人か力に及  
 七千餘年之休んか同二リ云に其塚に法皇の首  
 塚に重く其首塚の塚之念山より休んか同二リ  
 所塚之念山より其の肥田を其塚に重く

更休野	河平	百廿七文	日者
左田	系七十九	八十八文	日者
右田	系七十九	六十八文	日者
左田	系七十九	六十八文	日者

新田田舎田舎二石の者即一往米方在に在れあり  
 東海右のやよさる河 今渡村 左田村 右田村  
 幅一町餘の上本者河川の橋治也一河流右田川の  
 渡と渡りたを依り此よりいさる河も直流も也  
 更右田 河平八十五 百十二文 日者  
 渡 橋治 系七十九 七十八文 日者  
 右田 系七十九 八十八文 日者

河平橋渡を河平の河平村者其河平の河平  
 の河平村に多く出る河平の河平村者其河平の河平  
 河平の河平村に多く出る河平の河平村者其河平の河平  
 河平の河平村に多く出る河平の河平村者其河平の河平  
 河平の河平村に多く出る河平の河平村者其河平の河平



右の河平村に多く出る河平の河平村者其河平の河平  
 河平の河平村に多く出る河平の河平村者其河平の河平  
 河平の河平村に多く出る河平の河平村者其河平の河平  
 河平の河平村に多く出る河平の河平村者其河平の河平

更右田	河平	百十二文	日者
渡	系七十九	七十八文	日者
右田	系七十九	八十八文	日者

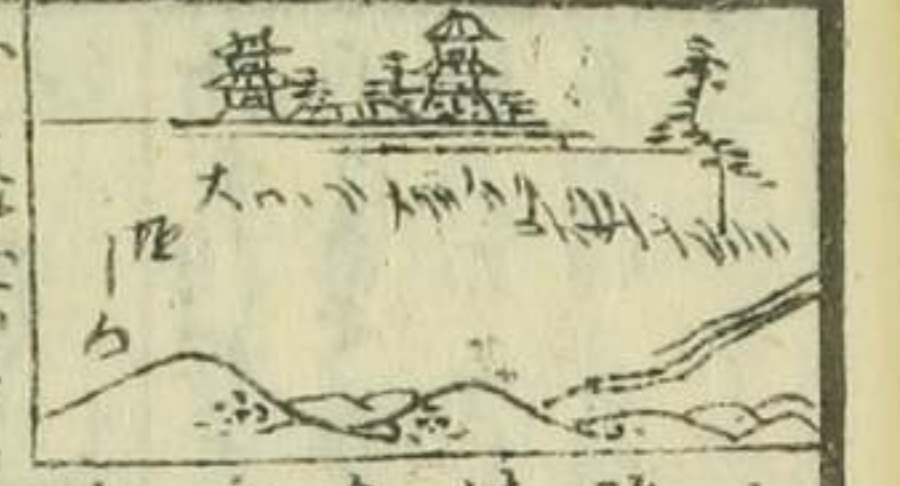
更加納 河平 百一十文 日者  
 更加納 河平 百一十文 日者  
 更加納 河平 百一十文 日者  
 更加納 河平 百一十文 日者

更加納	河平	百一十文	日者
更加納	河平	百一十文	日者
更加納	河平	百一十文	日者
更加納	河平	百一十文	日者

水井肥あり 尾のあたりに水たれにあり  
 所は海に近き所なり 秋中長くも人多く有るに於て三五を  
 度集りし高き所に園場をとりて水たれにあり 佐長之  
 古瀬河と云ふ 法中納言長房が居たり  
 土列も園場の内なるにあり 今更りこんの年  
 所は海に近き所なり 尾のあたりに水たれにあり  
 所は海に近き所なり 尾のあたりに水たれにあり

天の渡 江戸百六十五  
 一丁 人 三十三  
 二丁 人 三十三  
 三丁 人 三十三  
 四丁 人 三十三

赤坂 江戸百六十五  
 一丁 人 三十三  
 二丁 人 三十三  
 三丁 人 三十三  
 四丁 人 三十三



赤坂 江戸百六十五  
 一丁 人 三十三  
 二丁 人 三十三  
 三丁 人 三十三  
 四丁 人 三十三

赤坂 江戸百六十五  
 一丁 人 三十三  
 二丁 人 三十三  
 三丁 人 三十三  
 四丁 人 三十三

赤坂 江戸百六十五  
 一丁 人 三十三  
 二丁 人 三十三  
 三丁 人 三十三  
 四丁 人 三十三

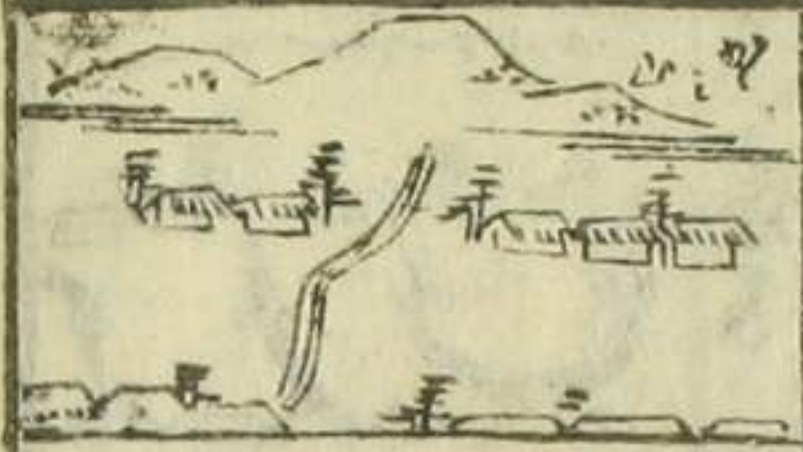


本町有海邊... 海邊有海邊... 本町有海邊...

全愛加門... 二百七十一文...

新海邊... 海邊有海邊... 本町有海邊...

武佐... 二百一十二文...



新海邊... 海邊有海邊... 本町有海邊...

凡投着... 海邊有海邊... 本町有海邊...

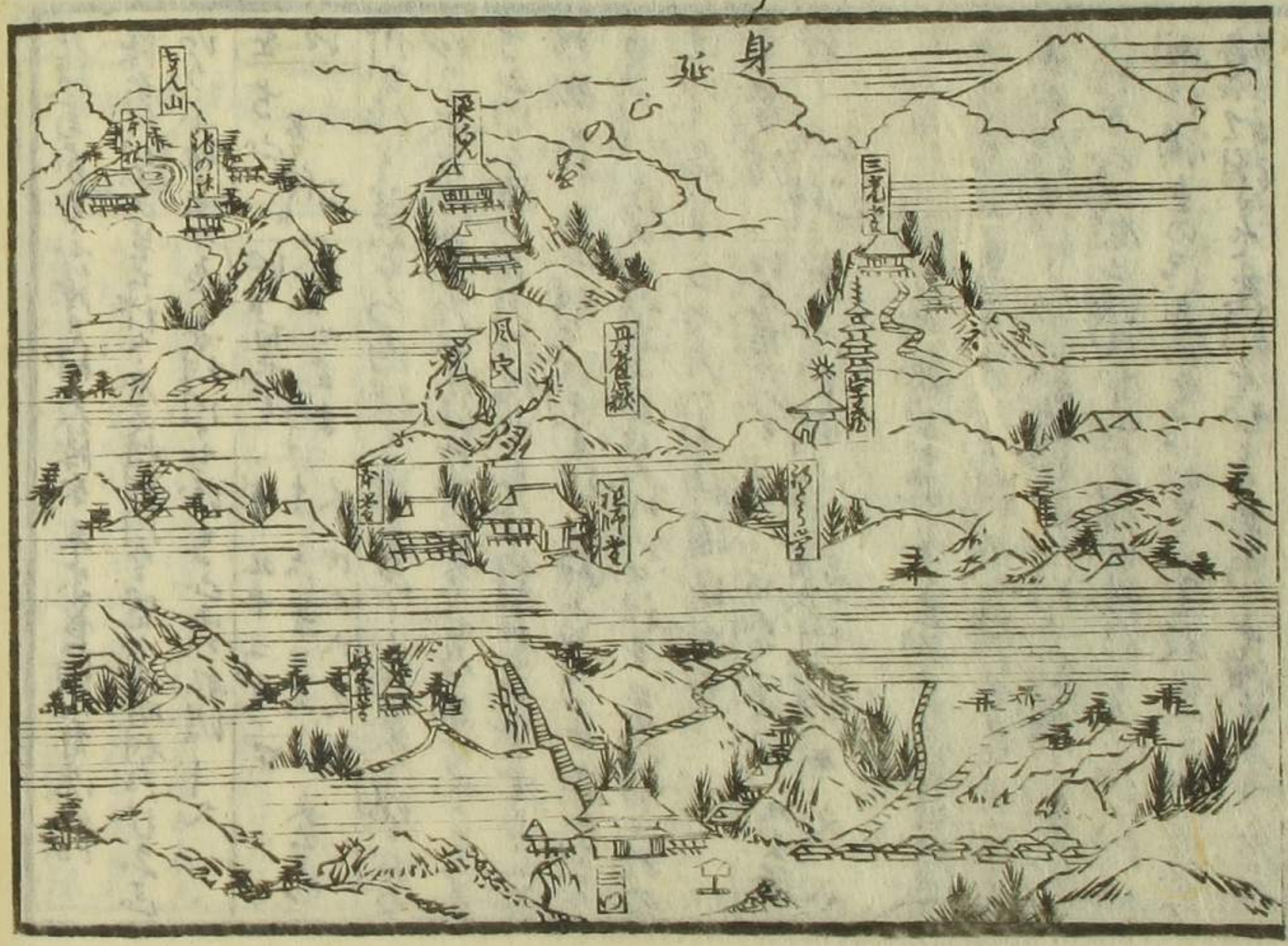
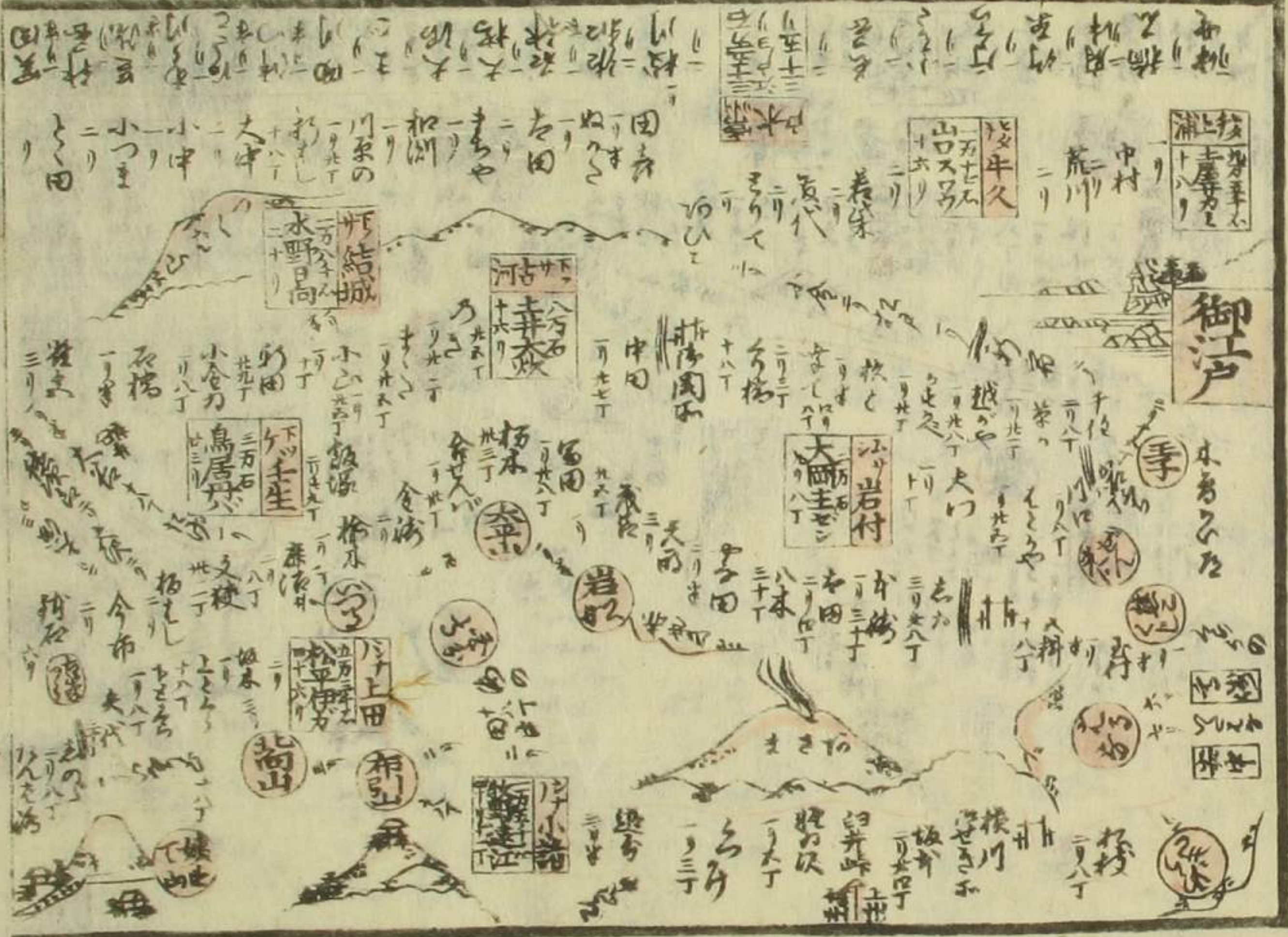
全吉山... 二百九十二文...

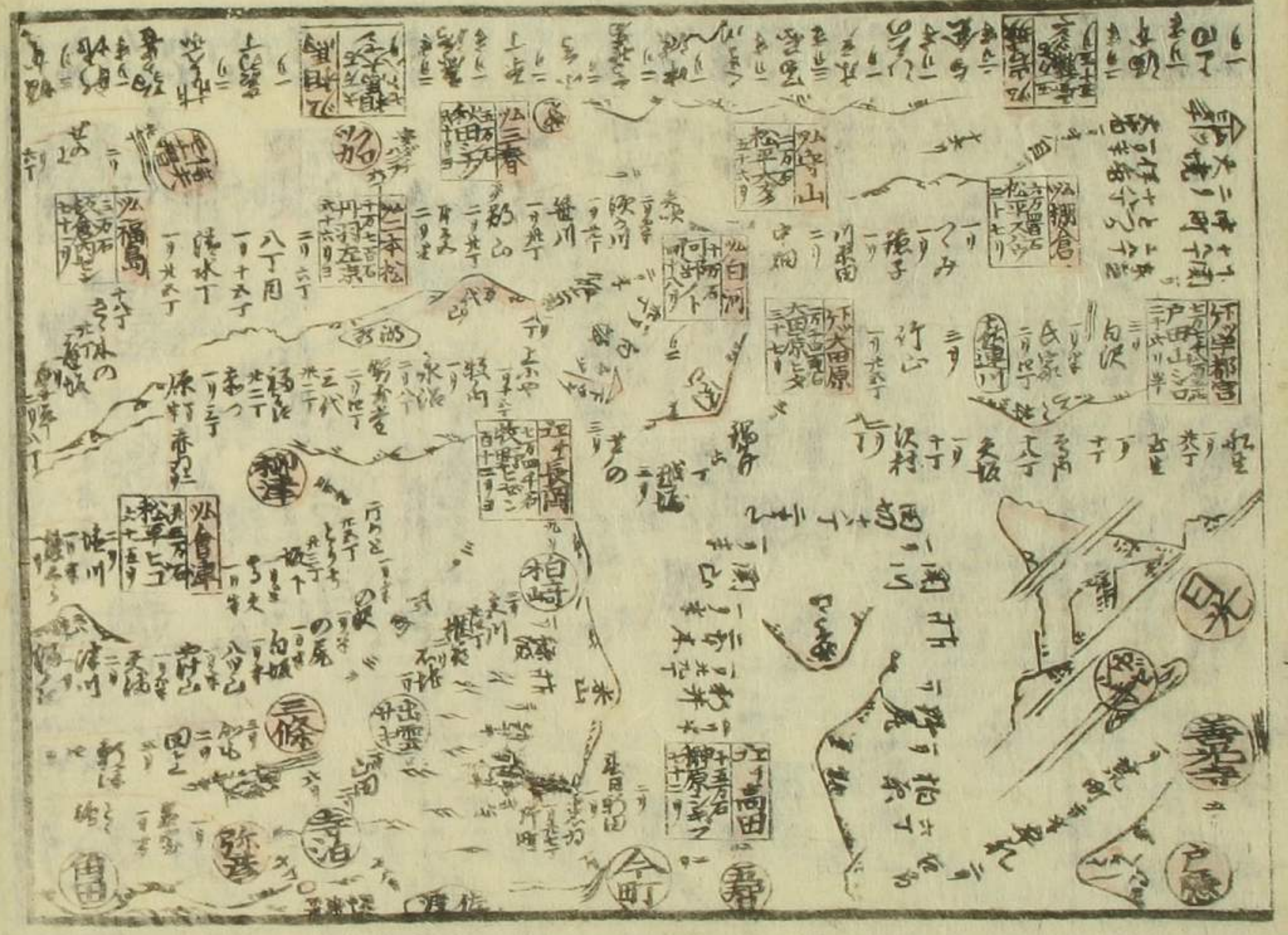
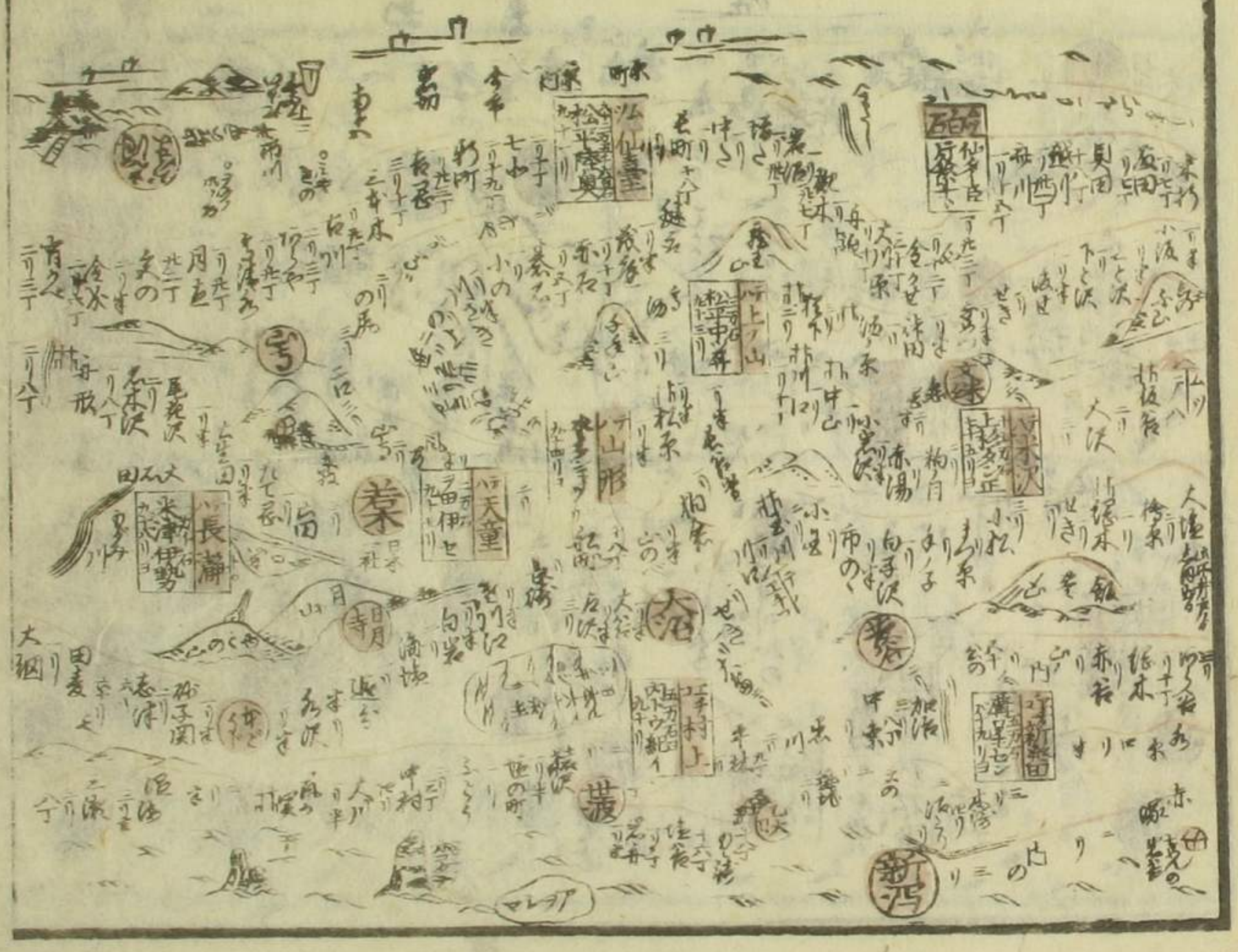
新海邊... 海邊有海邊... 本町有海邊...

全草津... 二百六十二文...

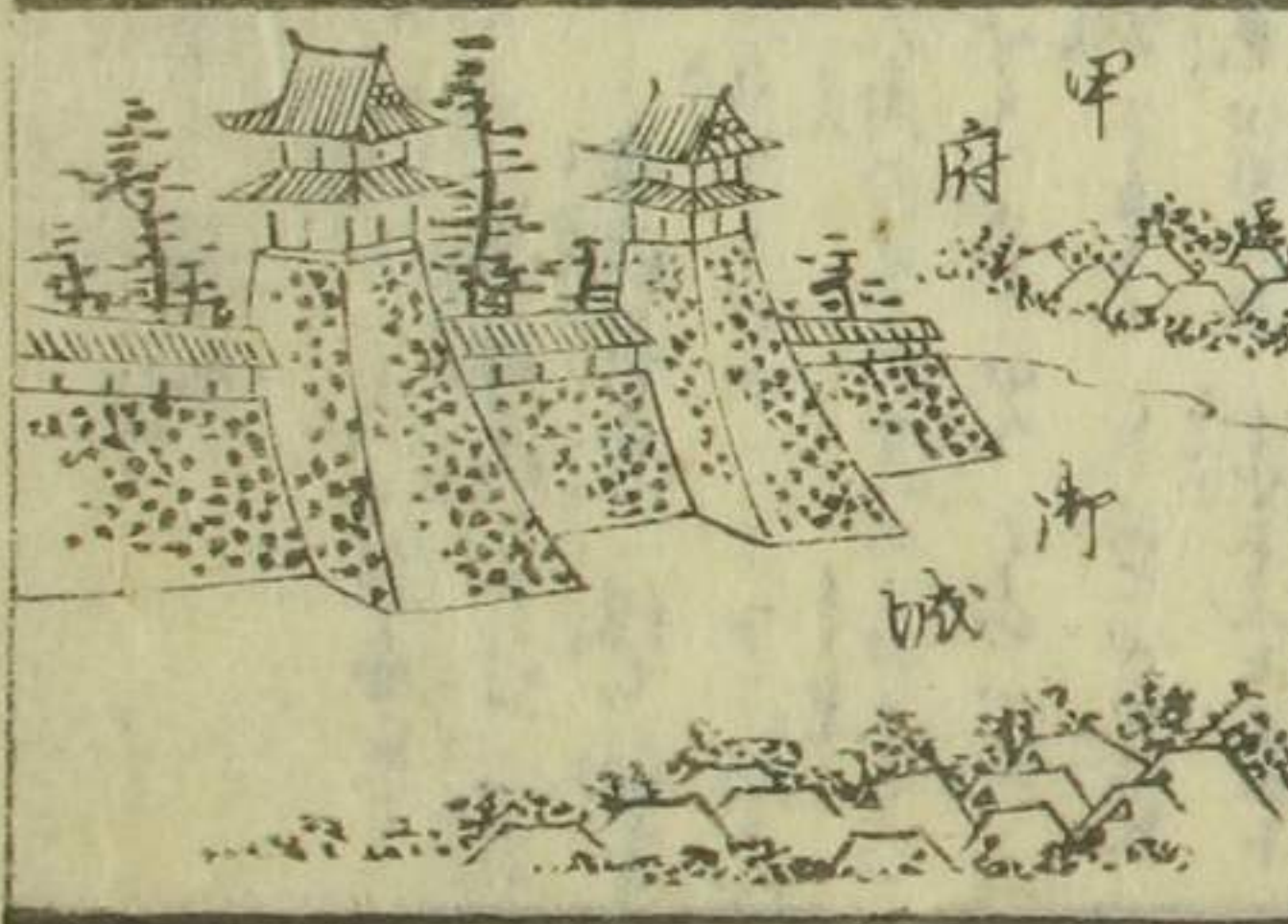
全草津... 海邊有海邊... 本町有海邊...



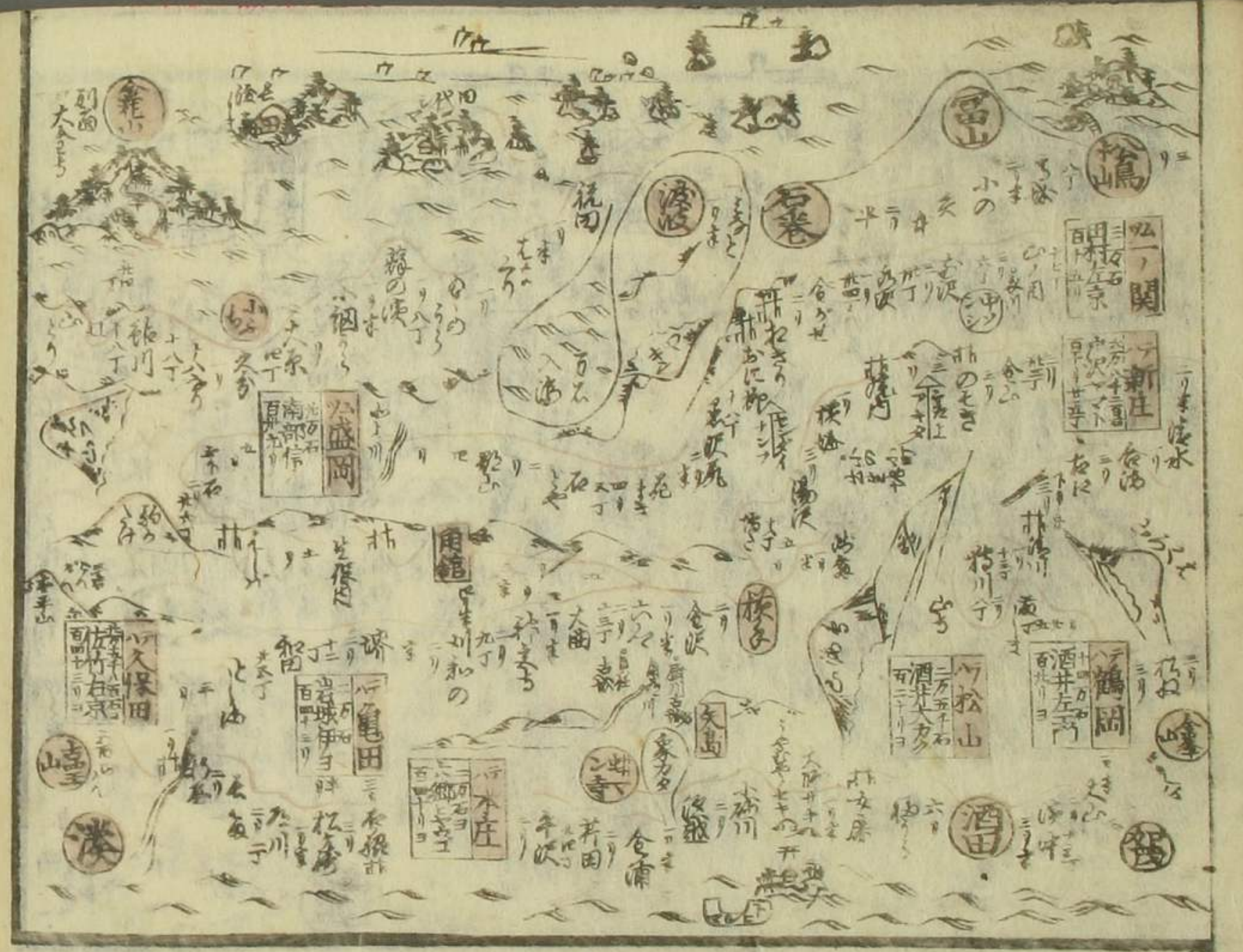




大 十 丁	神 十 丁	上 十 丁	犬 十 丁	野 十 丁	上 十 丁	園 十 丁	小 十 丁	小 十 丁	野 十 丁	日 十 丁	府 十 丁	布 十 丁	高 十 丁	河 十 丁	甲 十 丁
大 野	神 野	上 野	犬 野	野 野	上 野	園 野	小 野	小 野	野 野	日 野	府 野	布 野	高 野	河 野	甲 野
大 野	神 野	上 野	犬 野	野 野	上 野	園 野	小 野	小 野	野 野	日 野	府 野	布 野	高 野	河 野	甲 野



大 月 十 丁	小 田 十 丁	関 十 丁	矢 十 丁	足 十 丁	竹 十 丁	古 十 丁	換 十 丁	甲 十 丁	富士 十 丁
大 月	小 田	関	矢	足	竹	古	換	甲	富士
大 月	小 田	関	矢	足	竹	古	換	甲	富士



家傳の温病畧記

折綿温病の養生方の書法は、ついに愈せしめて、  
 ありては、此の病を治すに、  
 の病を治すに、  
 懐妊するもの、  
 古の温病の書法は、  
 弘化四丁未年十二月新刻



京都 養壽館鶴翁老醫秘傳也  
 私に補遺を以て、  
 東都 奎文房 和泉屋半兵衛版

東都發行書林

- 芝林の書 和泉屋右左衛門
- 同 和泉屋市右衛門
- 同 金花堂依左衛門
- 同 二丁目 小林新右衛門
- 同 山城屋依左衛門
- 同 一丁目 須原屋茂左衛門
- 同 山城屋政右衛門
- 同 英大助
- 同 長村左衛門
- 同 須原屋伴八
- 同 山崎屋清七
- 同 和泉屋金右衛門
- 同 奎屋又左衛門
- 同 大崎了阿 丁子屋平左衛門

通此町 友屋屋次郎  
 和泉屋長五郎  
 三養町二月 菊屋幸三郎  
 本白子町 本屋嘉吉  
 甲府屋町 村田屋幸吉郎  
 系坊 出雲方文次郎  
 河内屋長五郎  
 河内屋長五郎  
 天坂 坂中屋長一郎  
 尾張屋吉屋 永樂屋東四郎  
 甲府八日町 二文字屋長吉郎  
 佐原屋長吉郎 佐原屋長吉郎  
 同本町二月 多見屋長吉郎  
 同上町 上野屋三郎助  
 日暮橋四日市 和泉屋長五郎板

諸國御関所

遠方今切荒井

氣賀

相島箱根根府川土倉沢河村

仙石原 谷村

武島中川市川小岩金町

新郷小佛

下総松戸栗橋関宿

甲島木柄鶴瀬万沢

上島川俣碓氷横川猿ヶ京

本橋大笹五料白井

福島

近江柳瀬山中 劔熊

信濃福嶋浪合 帶川心川

小野川熱川 清志落木曾

越後関川市振 針崎



早稲田大学図書館

011488466188